

V 茨城県東茨城郡大洗町

1-1 東茨城郡大洗町の概観

◇位置

東京から北東へ約 100km、茨城県県央地域の太平洋に面した町である。

◇面積

23.19 平方 km

◇人口

7,015 世帯／17,557 人(平成 24 年 12 月 1 日現在)

◇主な産業

海水浴場があり、県内随一の観光地である。また、県下有数の漁業基地でもある。

◇交通機関

鹿島臨海鉄道の大洗鹿島線 大洗駅がある。

路線バスとしては、茨城交通と町内を循環するコミュニティバスが運行している。

町役場の最寄り駅は大洗駅。

1-2 東茨城郡大洗町の震災被害と復興状況

◇被害状況(平成 24 年 1 月 31 日現在) (付・人口動態)

(1) 人的被害・避難者の状況

① 人的被害

区分	人数
死者	1 人
行方不明	0 人
負傷者	6 人

② 住民避難の状況

避難者数(最大)	3,392 人
避難施設数(最大)	17 施設

(2) 建物等の被災状況

① 家屋

区分	件数
全壊家屋数	12 棟
半壊家屋数	281 棟

区分	件数
一部損壊家屋数	1,216 棟
浸水戸数	371 棟

②施設等の損壊

河川	那珂川	2か所	堤防の亀裂や沈下、護岸の崩壊
	潤沼川	2か所	
道路	国道51号	大洗町成田町	断続的に段差 下り線約4.8km区間通行止め
		五反田地区	地盤沈下による被害
海岸防災林 (成田ほか)	防災林防潮工	1,030m	着手中(2年で完了予定)
	林帯	0.8ha	津波の塩害による枯れ状況を確認しながら実施(3年で完了を目指す)
漁港	3漁港	町内全漁港	平成23年度末時点で、潮位に関わらず、岸壁の使用が可能。 平成26年度中に漁港施設の復旧の完了を目指す。
鉄道	鹿島臨海鉄道	水戸 - 大洗間	(平成23年4月2日復旧)
		大洗 - 新鉾田間	(平成23年4月8日復旧)
学校施設等	公立学校	町立学校5校	公立学校施設の災害復旧に係る国庫補助を申請
		県立学校1校	
	社会教育施設	6施設	

③ライフライン

電気	全域停電	平成23年3月14日より通電開始。 遅いところは3月18日頃まで停電
水道	全域断水	平成23年3月19日復旧

大洗町は、震度5強の強い揺れと度重なる余震、そして最大波4.9mの津波によって、沿岸部地区を中心に甚大な被害を受けた。防災行政無線による「避難指示」の呼びかけと消防団員や町職員による避難誘導によって津波による直接的な犠牲者はいなかったものの、町域面積の約10%にあたる200haが浸水し、住宅への被害も大きい。住宅の被害は全壊が12棟、半壊が281棟、一部損壊が1,216棟を数え、浸水した住宅は371棟であった。

<人口動態> (単位：人)

大洗町の人口の増減については、以下の通りである。 ※()内は、前年比

		人口	男	女
平成 23年	2月1日	18,290	8,894	9,396
	4月1日	18,203	8,830	9,373
	10月1日	17,864	8,660	9,204
平成 24年	4月1日	17,680 (-523)	8,586 (-244)	9,094 (-279)
	10月1日	17,578 (-286)	8,531 (-129)	9,047 (-157)

外国人登録数(各年12月末現在)

H19	H20	H21	H22	H23
886	930	1,037	966	799

平成 23 年			
3 月		4 月	
転入	転出	転入	転出
64	118	47	305

平均	平成 11 年 3 月～23 年 2 月 *平成 12 年, 17 年, 22 年 10 月を除く						平成 23 年 4 月～24 年 8 月					
	毎月		3 月中		4 月中		毎月		3 月中		4 月中	
	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
	67.3	70.8	115.3	136.6	101	83.1	48.1	72.7	77	108	54.5	200

平均と比べると、震災後の人口の流出は顕著である。

◇復興状況

3 月 11 日の震災以降、町内全域で停電・断水していたが、電気が 3 月 14 日より通電開始、水道は 3 月 19 日に復旧した。

損壊した各種施設についても復旧工事は進められている。河川・道路については平成 24 年度中に復旧する見通し。また、町内にある 3 つすべてが被災した漁港は、23 年度末には岸壁が使用可能な状態になっており、26 年度中の復旧完了を目指している。

津波により沿岸部を中心に町域の約 10%が浸水被害を受けたことから、高台への移転希望者が増えている。これに対応するため、標高が高い大貫台地区における住環境の整備(道路などの基盤整備を含む)を進めることが必要となっている。

また、大洗町は年間 560 万人の来訪者が訪れる県内最大の観光地である。今回の震災では高台への避難路が十分でなく混乱を招いたため、地域住民及び多くの来訪者が安全かつ速やかに避難できる広域避難道路や緊急避難道路、緊急避難場所などの新たな防災・減災施設を構築し、安全安心な観光地の形成を図り、交流人口増加による地域経済の復興と雇用創出の拡大を目指している。

1-3 収録地点について

収録地点：

大洗町 磯浜町

◇位置

東は太平洋に面し、北は那珂川河口に面している。
大洗町の北東端に位置する町である。

◇交通（距離／交通手段）

東京駅から 121km。車で 1 時間 37 分、公共交通機関使用で 2 時間強。

水戸駅から 12km。車で 25 分・公共交通機関使用で 27 分。
町役場から 0.6km。車で 2 分。※町役場は磯浜町
・最寄駅：鹿島臨海鉄道大洗鹿島線大洗駅（1.2km）

◇地勢

北部に水族館、海水浴場、東部にゴルフ場とキャンプ場がある。南部には住宅地が広がり、民宿やホテルも点在する。

◇行政区画

磯浜地区

◇人口・戸数(4/1 現在)

人口総数（男・女）／戸数
2010年 9,169 人（4,501 人・4,668 人）／3,589 戸
2011年 9,029 人（4,424 人・4,605 人）／3,571 戸
2012年 8,849 人（4,327 人・4,522 人）／3,550 戸

◇産業（生業）

主な産業は、観光業。

大洗町 大貫町

◇位置

東は太平洋に面し、町の北西を涸沼川が流れている。
大洗町の中央に位置する町である。

◇交通（距離／交通手段）

東京駅から 122km。車で 1 時間 39 分、公共交通機関使用で 2 時間。
水戸駅から 13.3km。車で 28 分、公共交通機関使用で 26 分。
町役場から 1.1km。車で 5 分。
・最寄駅：鹿島臨海鉄道大洗鹿島線大洗駅（1.0.km）

◇地勢

雑木林と住宅地が広がっている。南東部の海岸付近には民宿や飲食店が点在する。
町内の中央を北西から南東に向かって国道 51 号が通っている。また、国道と交差する形で鹿島臨海鉄道も通っている。

◇行政区画

大貫地区

◇人口・戸数(4/1 現在)

人口総数（男・女）／戸数
2010年 3,605 人（1,784 人・1,821 人）／1,381 戸
2011年 3,551 人（1,768 人・1,783 人）／1,396 戸

2012年 3,461人 (1,710人・1,751人) / 1,409戸

◇産業（生業）

主な産業は、観光業。

【出典】 * 《 》 中は各ホームページへのアクセス年月日

○大洗町ホームページ

- ・「町の概要」 > 「町のすがた」 < 「まちのすがた」

http://www.town.oarai.lg.jp/~machidukuri/machi/info_g_3_403.html 《2013.1.17》

- ・「町の概要」 > 「町政要覧」 > 「大洗町町政要覧 2 0 1 2」 > 「ACCESS 大洗企業立地ガイド(PDF 1.6MB)」

http://www.town.oarai.lg.jp/manage/contents/upload/00127_20120620_0012.pdf 《2013.1.17》

- ・「まちづくり」 > 「復興交付金」 > 「東日本大震災復興交付金事業計画について」

http://www.town.oarai.lg.jp/~machidukuri/machizukuri/info_g_3_1315.html 《2012.10.12》

○茨城県大洗町緊急情報時系列

http://www.town.oarai.lg.jp/~koushitsu/saigai/info_g_3_1039.html 《2012.10.16》

○2011/04/19 茨城大学 東日本大震災調査団中間報告会「大洗町における避難、社会影響について」

<http://www.icas.ibaraki.ac.jp/wp-content/uploads/2011/05/11bfc6feed9f7884a5110653a0810931.pdf>

《2012.10.17》

○東北関東大震災 茨城県（大洗町）建物被害初動調査 報告

<http://freesia.arch.ues.tmu.ac.jp/TohokuEQ2011/201103/msg155.1.pdf> 《2012.10.17》

○復興庁ホームページ内「事業計画（茨城県大洗町）」

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/215ibaraki05oarai0611%E2%98%86.pdf> 《2012.10.17》

○鹿島臨海鉄道株式会社ホームページ内「最新情報」

<http://www.rintetsu.co.jp/archives/1390> 《2012.10.18》

○茨城県ホームページ

- ・「3月11日発生 東北地方太平洋沖地震による水道被害状況」

<http://www.pref.ibaraki.jp/20110311eq/pdf/0010.pdf> 《2012.10.17》

- ・国際課 > データ集 > 「外国人登録者数（市町村別）」

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/seikan/kokuko/jpn/data/01-03.xls> 《2012.10.26》

- ・「いばらき統計情報ネットワーク」 > 「茨城県の人口と世帯（推計）月報」 > 「茨城県の人口と世帯（推計）－平成24年12月1日現在－」

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/getsu/jinkou1212.xls> 《2013.1.16》

以上、1-1, 2 に関して

○茨城県ホームページ いばらき統計情報ネットワーク > 分野別（人口） 《2012.11.8》

- ・「茨城県の人口（町丁字別）」（平成22年4月1日現在）：水戸市～小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza22/hyou02-1.xls>

- ・「茨城県の人口（町丁字別）」（平成23年4月1日現在）：水戸市～小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza23/hyou02-1.xls>

- ・「茨城県の人口（町丁字別）」（平成24年4月1日現在）：水戸市～小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza24/hyou02-1.xls>

以上、1-3 に関して

2 東茨城郡大洗町の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

茨城県の方言は、方言区画上、関東方言とするか東北方言とするかで議論がなされている。共通語を擁する関東方言と共通する性質ももちながら、県の北部で隣接する東北方言と共通する性質ももちあわせている。栃木県とならんで、関東方言から東北方言への地理的な連続性に起因するものである。とくに、アクセントでは、栃木県や福島県、宮城県の方言とともに、無型アクセント地帯を形成する。

大洗町方言は、県内区画の六区分説にしたがえば、太平洋沿岸の「浜ことば区域」に位置する。三分説にしたがえば、北部方言と南部方言の境界辺りに位置する。

音韻

(1)茨城県下の母音では、「い」と「え」の発音が混同されやすいこと、連母音の融合現象が盛んなことが指摘されている。今回の談話採集調査においても同様の現象がみられた。まず、「い」と「え」の発音では、交替する場合としない場合とがある。「声 コイ」「柄 イ」、
「威張る エバル」「覚える オボイル」となる。「井戸 イド」と「江戸 エド」は、発音の対立があり区別されている。さらに、連母音の融合現象では、連母音アイ・アエ・イエはエーになる傾向がある。たとえば、「固い カテー」「平ら テーラ」「見たい ミテー」・
「前 メー」・「見える メール」「消える ケール」のように発音される。談話の中では、「見えないね」はメーネーネ、「家の前」はエーノ メーと発音されている。

(2)子音についても同様に、これまでもいくつかの特徴が指摘されてきた。語中・語尾のカ行音・タ行音が濁った音になりガ行とダ行で発音されること、語中のジ・ビ・ブ・ズが澄んだ音になりチ・ピ・プ・ツと発音されること、ヒとシが混同されることなどがあげられる。これらの現象は、大洗町方言でも盛んである。

語中・語尾のカ行音とタ行音は、濁った音で発音されることが多い。「坂 サガ」「おそらく オソラグ」・「頭 アダマ」「旗 ハダ」「まつげ マズケ」・「ほとんど ホドント」と発音される。カ行がガ行に発音される傾向にあるので、ガ行は鼻濁音カ^o行に発音されることがある。「開ける」と「上げる」は、それぞれアゲルとアケ^oルで区別している。

「じ」と「ぶ」が澄んで発音される語がきかれた。「二時間 ニチカン」「短い ミチケー」「始め ハチメ」・「座布団 ザプトン」である。ジがチとなり、ブがプとなっている。澄んだ音になる現象では、「これだけ」がコンタケ、「ほとんど」がホドントもある。ダとドが、それぞれタとトになる発音である。

「ひ」と「し」の発音が混同している。「人 シト」「東 シガシ」「避難 シナン」「百円 シャクエン」「秘密 シミツ」。他にも、「東茨城郡 シガシイバラキク^oン」「五十歩百歩 ゴジュッポシャッポ」の発音がきかれた。

以上の他に、「面白いのだよ」がオモシンドヨ、「面白いよ」がオモシーヨと発音される現象もきかれた。茨城県方言では、ナ行音に続くラ行音が撥音ンに変化することが多く、ラ行音が不安定なことが指摘されている。大洗町のオモシンドヨ、オモシーヨは、それとは違う現象であるが、ラ行音が不安定なことと関連するものであろう。

(3)イがユに発音されることがある。「鯛 ユワシ」「お祝い オユワイ」となる。

(4)大洗町方言のアクセントは、無型アクセントである。イントネーションも平板調である

が、文末にいくにしたがって徐々に声が高くなっていくように聞こえる。

文法

(1) 「来る」「する」の活用は、上一段化傾向にある。「来る」では、キネー（来ない）、キネーベ（来ないだろう）、キラレル（来られる）、キットギ（来る時）がきかれる。「する」では、シル（する）、シルトキ～シットキ（する時）、シレバ（すれば）がきかれる。

(2) 推量の表現には、ベやペ、-ダネーノ（-ではないの）や-ダネーノゲ（-ではないのか）が用いられる。「来ないだろう」はキネーベである。「雨が降るだろう」の意味で、アメカ°フツペ、アメカ°フンダネーノゲーがきかれる。「雨は降らないだろう」の意味では、アメワフンネダネーノがきかれる。

意志や勧誘の表現にはベーがきかれた。「頑張ろう」はガンバンベーである。

(3) 格助詞ではサとゴドが特徴的である。「学校へ行く」はガッコーサ イグ、「どこに行くの？」はドコサ イグノー?となる。方向を表す「へ」「に」にあたる場所にサがあらわれる。また、「私を連れて行ってください」はオレゴド ツレテテクレ、「孫を怒った」はマゴゴト オコッタが使われる。相手を表す「を」にあたる場所にゴドが使われる。この「を」の部分の助詞は、省略されることもある。

(4) 「させる」という意味を表す動詞の使役形には-ラセルが用いられる。「上げさせる」はアケ°ラセル、「見させる」はミラセルである。

(5) 大洗町方言の「抱く」はダカエルである。「母親が赤ん坊を抱いている」は、オカーチャンガ ネンネオ ダカエテルとなる。「抱かれている側の赤ん坊」を主体にすると、ネンネガ オカーチャンニ ダカサッテルとなる。

語彙

(1) 〈波〉に関する語彙の体系が発達している。〈波〉の様子を把握することが、漁に出られるか出られないかの判断に直結するからであろう。ナグロ（時化）の下位語には、コナグロ（小時化）とオーナグロ（大時化）がある。台風の時のような大きな波がナグロである。オーナグロは、ホーライサン（宝来山）とも呼ばれる。大きな波は、マイナス面だけではないことをとらえている語である。同じ大きな波であるツナミ（津波）とは区別してとらえられている。ナグロは、天気気象によって変化する波の様子をとらえた語であるが、ツナミは、海の底から上がってくる地震の時の波をさす。

海面に立つ小さな波にも名づけがなされている。ギラバリは光る波のことをさしている。天気もよく、海も静かで、おだやかな波のことをとらえた語である。ナギは、海面の様子が静かなことをさす。天気はそれほどよくないけれども、海面は静かな様子をとらえた語である。

(2) 〈風〉を表す語彙の体系も発達しているが、男女差があるようである。漁に大きな影響を与える〈風〉であるだけに、吹いてくる方角や季節や温度によって名づけが行われている。イナサ、コジケ°、ヤマゼ、ナライノカゼ～ナレーノカゼがきかれた。〈風下〉と〈風上〉はカザシモとワッテで対立している。体系的な調査記述は今後の課題である。

(3) 〈生き物〉を表す語に、接尾辞メが使われる。例えば、ムシメ（虫）、カンメ（蚊）、イ

ヌメ（犬）、ネコメ（猫）である。このような事象は、茨城県内全域と共通するばかりではなく、隣接する栃木県ばかりではなく、八丈島、石川県、福井県とも共通する。

(4) 接尾辞ゲが人を表す名詞や代名詞につくと「～の家」の意味になる。「俺の家」はオレゲまたはオッラゲである。ちなみに、自分のことを表す一人称は、オレまたはオッラである。

参考文献

- 新井小枝子・吉田雅子(2004)「都道府県別方言概説」『標準語引き 日本方言辞典』
佐藤亮一監修.1371-1467.小学館
- 金澤直人(1984)「4 茨城県の方言」『講座方言学 5 関東地方の方言』飯豊毅一他編.79-100.
国書刊行会
- 川島秀之(1992)「茨城県方言」『現代日本語方言大辞典 1』平山輝男編.104-09.明治書院
- 国立国語研究所(2002)『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第4巻
茨城・栃木』国書刊行会
- 宮島達男(1961)「方言の実態と共通語化の問題点 6 福島・茨城・栃木」『方言学講座第2巻 東部方言』東条操監修. 236-63. 東京堂出版.



写真1 大洗町漁業組合 1階の壁に残る津波の跡



写真2 大洗町漁協を背にして港をのぞむ



写真3 入り口から見た西光院



写真4 西光院の入り口と「ひなん場所」の看板



写真5 [26] Y14 の所から [27] 真沖を見る



写真6 堤防とその向こうに広がる真沖。ここに避難した船を見ていた。

3 大洗町の談話

3-1 大洗町の談話収録の概要

収録地点

茨城県東茨城郡大洗町

収録日

談話A（自由会話）…平成24（2012）年10月22日（月）

平成24（2012）年10月23日（火）

談話B（場面設定）…平成24（2012）年10月23日（火）

収録場所

大洗町漁業協同組合会議室

話題（収録時間）

【1】震災の瞬間のこと（8分12秒）

【2】震災直後の津波と避難のこと（5分00秒）

【3】陸での避難のこと（1分18秒）

【4】陸での避難場所から沖での避難を見守っていたこと（2分03秒）

話者

話者A 女性 1937（昭和12）年生（収録時75歳） 漁業

話者B 女性 1940（昭和15）年生（収録時71歳） 漁業

話者C 女性 1950（昭和25）年生（収録時62歳） 漁業

3-2 大洗町の談話A：自由会話

【1】 震災の瞬間のこと

収録時間 8分12秒

話し手

話者A 女 1937 (昭和12)年 (収録時75歳)
話者B 女 1940 (昭和15)年 (収録時71歳)
話者C 女 1950 (昭和25)年 (収録時62歳)
話者D 女 1957 (昭和32)年 (収録時54歳) [調査者1]
話者E 女 1969 (昭和44)年 (収録時43歳) [調査者2]

001A : ナニ オメツ アッ ナッ コッ モ コレ イツマデ シャベッテンノ
何 お前 × × × × これ いつまで シャベってんの

オッララ。
俺ら。

002B : {笑} (E {笑})
{笑} (E {笑})

003A : ソー ソンデ ホーゲン デダノカシラ。(E {笑} イッパイ)
そう それで 方言 [は] 出たのかしら。(E {笑} いっぱい)

004B : ジューブン デタ? (D エー)
十分 出た? (D ええ)

005A : ダイジョブゲ。 ウーン。
大丈夫かい。 ううん。

006D : ジャー スコシ アノ キョネンノ アノ シンサイノ トキノ コロノ
では 少し あの 去年の あの 震災の 時の 頃の

(A ウン) オハナシトカ (A ウン) マ ケイケンダンナンカオ スコシ
(A うん) お話とか (A うん) まあ 経験談などを 少し

オハナシイタダケルト。(A ソーダネー ウン ハイ) エー (B ウン)
お話しいただけると。(A そうだね うん はい) ええ (B うん)

ソノトキワ ドコニ ミナサン イラッシャッタデスカ。
その時は どこに 皆さん いらっしやったのですか。

アノ ユレタトキニワ。
あの 揺れたときには。

007C : ユレタトキワ ワタシラ チョード オミセ、トーバンデ ハイッテタノ。
揺れたときは 私ら 丁度 お店、 当番で 入ってたの。

008D : カーチャンノミセ [1] 。
母ちゃんの店。

009C : ソー カーチャンノミセ。
そう 母ちゃんの店。

010A : ウン。ウン。
うん。うん。

011B : ネ。デモ タマダマ オキヤクサンカ°、 (D エー) ヒトリダケ
ね。でも たまたま お客さんが、 (D ええ) 一人だけ

ダツタンダツテ カーチャンノミセカ°。(C ヒトクミ イタネ)
だったのだって 母ちゃんの店が。(C 一組 いたね)

012A : ヒトグミダケダツタノ。
一組だけだったの。

013B : ヒトグミダケナンダト。(A アー) ダカラ ハヤグ、チツテ
一組だけなんだと。(A ああ) だから 早く、 といって

オカネ カエシテネ。
お金 [を] 返してね。

014C : ワケオ ユツテネ。
訳を 言ってね。

015A : ニゲライタンダ。 ウーン。
逃げられたのだ。 ううん。

016B : ニゲライタンダ。 Aチャン ドゴニ イタノ。
逃げられたのだ。 Aちゃん どこに いたの。

017A : ウフフー {笑}
うふふ {笑}

018B : ドゴニ イタノ? フラツテテ。
どこに いたの? 笑ってて。

019A : オメ タビホーダイ。 ミドノホー アルツテキテ。
お前 食べ放題。 水戸の方 [を] 歩いてきて。

020C : アレ。
あれ。

021A : ソー ソンデ カイリニ アノ ナカノ アノー カボクセンターイ ヨッテ
そう それで 帰りに あの 中の あの 花木センターへ 寄って。

(C ウーン) (B ウーン) ハナ カッテ オーハライッペ ウダッテ
(C うん) (B うん) 花 [を] 買って // // // // // 歌って

(B {笑}) ヨロコンデ ルンルン
(B {笑}) 喜んで るんるん

カイツテキタラ アスコノ カツタノ アノ オーハシ。 (C ウーン)
帰ってきたら あそこの 勝田の あの 大橋。 (C ううん)

(B ウン) カツタノ オーハシケー、オッララガ アッチガラ クンノニワ
(B うん) 勝田の 大橋かい、俺たちが あちらから 来るのには

ミトカラ クルノニ ~~~~~
水戸から 来るのに ~~~~~

022C : ~~~~~ワンノ ハシ。
~~~~~湾の 橋。

023A : ドコノ ハシツツーノ アッチノ アレ。ミドノ。ミドノ タカイハシガ  
どこの 橋というの あっちの あれ。水戸の。水戸の 高い橋が

アッペヨー。  
あるだろうよ。

024C : アー コンド アタラシクデキタ?  
ああ 今度 新しくできた?

025A : アー シロイハシ。  
ああ 白い橋。

026C : シロイ ウーン。  
白い ううん。

027A : ウーン シタガ デンセンガ トーッ、 アノ デンキバシラ シタニミテ。  
うん 下が 電線が ×××、 あの 電気柱 [を] 下に見て。

ソンデ (C ハー) ソノ。ア アノ。  
それで (C はあ) その。× あの。

028C : アー デワ ゴケンチョーノ [2] ホーイ デルトコロ?  
ああ では 五軒町の 方に 出るところ?

029A : アー ナンダ ミドノ カイリナンダヨ タベホーダイシテ。(B ウーン)  
ああ なんだ 水戸の 帰りなんだよ 食べ放題して。(B うん)

ソコノ ハシノ ウイデ ユライチッタノ。(C エーッ)  
そのの 橋の 上で 揺られてしまったの。(C ええっ)

(B エッ) ハシノ ウエデ。(C アレー エーッ)  
(B えっ) 橋の 上で。(C あれ ええ)

030B : ユレダッペ?  
揺れたでしょう?

031A : ユレダッチューモンダネーヨ。(C           ) イマデ オモエバ  
揺れたというものではないよ。(C           ) 今で 思えば

(C ハシガ コワレルンジャネーカト) ハシガ ツカム アノ アレガ  
(C 橋が 壊れるのではないかと) 橋が 掴む あの あれが

アッパー (C ランカン) アノ シャベルカー。  
あるでしょう (C 欄干) あの シャベルカー。

032C : ア シャベルカー。  
あ シャベルカー。

033A : アレニ ツカマッテ フリマーサレテット オンナジダ コーヤッテ。  
あれに 掴まって 振り回されてるのと 同じだ こうやって。

034C : ソンナニ ユレタノ。  
そのように揺れたの。

035B : エーッ。  
ええっ。

036A : ロツ ロクニ ロクニ ゴニンデカ。(C フーン) (B フーン) ゴニンデ。  
×× ××× ××× 五人でか。(C ふうん) (B ふうん) 五人で。

トモカク オバチャン オリッペッツーカラ。  
ともかく おばちゃん 降りようというから。

オリットコダアンメッツッタノ ミンナ クルマガ  
降りるところではあるまいと言ったの みんな 車が

トマッテンダモノー。 (C ウーン) ダマッテ  
止まっているのだもの。 (C うん) だまって

ココニ ハイッテルホカ アンメーッテ。  
ここに 入っている他 [は] あるまいと言って。

(C ウーン) ミンナ シグトキワ イッショダワーッテユッテ  
(C うん) みんな 死ぬときは 一緒だわと言って

ミンナシテ ツカマッテ コーヤッテ イダノ。イーヤ コーダヨ コー。  
みんなして 掴まって こうやって いたの。いいや こうだよ こう。

037C : ジャ オッカナイオモイ シテタネ。  
では 恐い思い していたね。

038A : イーヤッ ハシノ ウイダモノ (C オッカネー) オッカネーベヨ。  
いいや 橋の 上だもの (C 恐い) 恐いだろうよ。

オバチャン デンキバシラ、デンキバシラ ドコダ、 デンキバシラ  
おばちゃん 電気柱、 電気柱 どこだ、 電気柱

ココニ アンダカラ シンペーネーワ。  
ここに あるのだから 心配ないわ。

タダ コッカラ オッコトサレンノガ オッカネーワッテ ユッテタンダ。  
ただ ここから 落とされるのが 恐いわと 言っていたのだ。

039C : アー ハシガ クズレルシサ \_\_\_\_\_。  
ああ 橋が 崩れるしさ \_\_\_\_\_。

040A : シタガ センロダモノ。  
下が 線路だもの。

041B : エーッ。  
ええっ。

042A : ソコノ マウエニ イダンダモノ。  
そこの 真上に 居たのだもの。

043C : ハー。  
はあ。

044B : エーッ。  
ええっ。

045A : ハシノ マウエ。イーヤ オッカネーツーモンジャ ナガッタヨ。ソンデ  
橋の 真上。 いや 怖いというものでは なかったよ。それで

イソイデ スゴシ イチジ オサマッテ。(C ウーン) コンダ ハシオ  
急いで 少し 一時 おさまって。(C うん) 今度は 橋を

オリラレタノ。  
降りられたの。

046A : ソシタラ オリタ タモトデ マダ ヤラレチッタノ。  
そうしたら 降りた たもとで また やられてしまったの。

047B : アー。  
ああ。

048C : アー。ソーダヨ ニカイ ナツタンダモン。  
ああ。そうだよ 二回 なったんだもの。

049A : ニカイデ。イーヤ デンワ カケヨート ナニ ショーット。  
二回で。 いや 電話を かけようと 何 [を] しようと。

ゼンゼンツージマセン。  
全然通じません。

050C : デン \_\_\_\_\_ ソー。  
\_\_\_\_\_ そう。

051A : ソー。 ソシタラ カナザワニ イッテル (C ウン) X1 X1 [3]  
そう。 そうしたら 金沢に 行っている (C うん) X1 X1

カラ デンワガ キダノ。(C ウン) (B アレー ウーン) オカー  
から 電話が 来たの。(C うん) (B あれ ううん) お母さん

コーユウ ジシंगा アンガ ドコニインダ、 オカー ツーワケ  
こういう 地震が あるが どこにいるのだ、 お母さん というわけ

(C ウーン) コーユウワケデ アスビニ イッテ  
(C うん) こういうわけで 遊びに 行って

クルマノ ナカダツター (B アー) (C ウン) サーギデ。ソンデ  
車の 中だという (B ああ) (C うん) 騒ぎで。それで

オトーラガ ドーナッタカ レンラクカ° ツカネンダッテ デンワノ  
お父さんらが どうなったか 連絡が つかないのだって 電話の

レンラクガ (B ウーン) ソンデ オトーントコニ デンワ  
連絡が (B うん) それで お父さんのところに 電話 [を]

カケテクンロツテ。 (C ウン) (B ウーン) ソンデ カケテモラッタノ。  
かけてくださいって。 (C うん) (B うん) それで かけてもらったの。

(B ウーン) カナザワノ (B ウーン) ムスコニ。 (B ウーン)  
(B うん) 金沢の (B うん) 息子に。 (B うん)

ソシタラバ オトーノ ホーガラ ゼンゼン レンラクガ°  
そうしたらならば お父さんの 方から 全然 連絡が

ツカネーガラツテ (C ウン) (B ウーン) デンワガ キダノ。ソンデ  
つかないからって (C うん) (B うん) 電話が 来たの。それで

コンダオジーサンガ イッペヨ ヒトリデ。 (Bウーン)  
今度はお爺さんが 居るでしょうよ 一人で。 (Bうん)

サー X2 チャンカ° [4] タマゲチャッタヨ。 (C ウン) (B ウーン)  
さあ X2 ちゃんが たまげてしまったよ。 (C うん) (B うん)

オジーサン ドーシヨー ドーシヨーツテ。 (C ウン) (B ウーン)  
お爺さん [を] どうしよう どうしようって。 (C うん) (B うん)

ソレ ドーシヨツツタツテ コレ クルマンナカデネー (B ウン)  
それ どうしようと言ったって これ 車の中でね (B うん)

インダモノ コレ X2 チャン ドーニモ ナンメーツツッタノ  
居るのなもの これ X2 ちゃん どうにも なるまいって言ったの

(B ウーン) ネー コレ ココイ キツチャッテンダガラ  
(B うん) ねえ これ ここへ 来てしまっているのだから

モー アギラメデー、 アレシルホカアンメーツテ。  
もう あきらめて、 あれするほか [は] あるまいとって。

X3 サンガ エレバ オヤジワ イッペカラ。 モー ルスバン \_\_\_\_\_カラ  
X3 さんが いれば 親父は 居るだろうから。もう 留守番 \_\_\_\_\_から

ルスバン タノムヨツテ ユツテキタンダカラ。キタンダツツカラ ダカラ  
留守番 [を] 頼むよって 言ってきたのだから。来たのだと言うから だから

ゼツタイ オジーサン ソゴニ イット オモーヨ ツツッタノ。ウン。  
絶対 お爺さん [は] そこに 居ると 思うよ といったの。うん。

シタラ ソレオ、ソレオ マッテル タメニ マッテダタメニ  
そうしたら それを、それを 待っている ために 待っていたために

アタシラガ カイルノオ マッテルタメニ フネカ° ホレ ノッパグレ  
私たちが 帰るのを 待っているために 船が ほれ 乗り

ハゴッタンデ [5]。(C ハー)ンダカラ フネー アノー イッタツーノワ  
はぐれたので。(C はあ)それだから 船を あの 行ったというのは

トラックワ アッチー ノッテチャッタッペヨ。  
トラックは あっちに 乗って行ってしまったでしょうよ。

(C アー) (B ウン) ガンペキサ。  
(C ああ) (B うん) 岸壁へ。

(B ウン) ソンデ フネー ノッタトキニワ モースデニ ココマデ  
(B うん) それで 船に 乗ったときには もうすでに ここまで

キテタツダカラ (B エーッ ウン) (A アー) ガンペキノ  
来てた [の] だというから (B ええっ ううん) (A ああ) 岸壁の

ミズカ°。 ソンデ フネ トビオリタヨ。(C エーッ)  
水が。 それで 船 [を] 飛び降りたよ。(C ええっ)

トビオリテ イソイデ (B ウン) デッペトモッタラ イマ、  
飛び降りて 急いで (B ううん) 出ようと思ったら 今、

ナミガ アガッテキタカラ チョックラ  
波が 上がってきたから 少し

マッテローッテユウワケデ (C ウン ウン) (B ウン) ストップ  
待っているというわけで (C うん うん) (B うん) ストップ

シタッペー。 アノー チョード Y1ト [6] Y2ダノ [7]  
したでしょう。あの ちょうど Y1と Y2だの

Y3ワ [8] マダ ソコノ イダンダツツカラ。(B ウン)  
Y3は まだ そのの 居たのだっというから。(B うん)

ソンデ アノ Y4ツツッテネ [9] ドコダツケナ ニソーイダンダツツ  
それで あの Y4とってね どこだっけな 二艘いたんだという

Y5カナ [10]。 Y5ガ。  
Y5かな。 Y5か。

052C : Y5 ラモ アブナカッタ。  
Y5 らも 危なかった。

053A : アブナカッタツツタンダカラ ソレオ タスケタノカ° ダレダツケ？  
危なかったといったのだから それを 助けたのが 誰だっけ。

アノ アレ テンマ カッポッテ [11] アノ Y5 オ  
あの あれ 伝馬 [船を] 乗り捨てて あの Y5 を

タスケテクレタッペ アノ アレ ホレ X4 ノ ムスコ。  
助けてくれたでしょう あの あれ ほれ X4 の 息子。

054C : ハー。  
はあ。

055A : X4 ノ ムスコノ オメー テンマセン ナガシチャッタッペ。 X3 チャンノ  
X4 の 息子の お前 伝馬船を 流してしまったでしょう。X3 ちゃんの

ムスコワ。ソノ フネオ カッポッテ Y5 サ ノッカッテ イソイデ  
息子は。その 船を 乗り捨てて Y5 さ 乗りかかって 急いで

Y5 Y5 「エンジン カケロ フットバセ」 ツツッテ  
Y5 Y5 「エンジン [を] かけろ とばせ」といって

エンジン カケテ オキサ デタンダツツカラ。 (B アー)  
エンジン [を] かけて 沖に 出たのだというから。 (B ああ)

ソンデ ソノ アドー デデッタカラ ダイジョブダンベツンデ X5 チャン  
それで その あと 出ていったから 大丈夫でしょうといっって X5 ちゃん

ビショビショデ (C ウーン) ソノママ フネ  
びしょびしょで (C うん) そのまま 船

056B : ノッタнда。  
乗ったのだ。

057A : ア ナミニ ノッカッテ オキサ デダндаト。 ンダカラ  
× 波に 乗りかかって 沖に 出たのだった。それだから

(B アー) コノ トツカラ ムコーイ  
(B ああ) この ところから 向こうに

イッタカラ (B タスカッタнда) タツスカッタ。ソノ ソレサ ノッカレネーデ  
行ったから (B 助かったのだ) 助かった。 その それに 乗つかれないで

(C ウーン) Y3ノ ホレ Y2ガ (B ウーン)

(C うん) Y3の ほれ Y2が (B うん)

チャボッ\_\_\_\_\_ (B スコロク [12] ヤッチッタンダ)

××××\_\_\_\_\_ (B // // // [を] やってしまったのだ)

スコロク ヤッチャッテ ニソーデ ゴダゴダ ヤッテタッペ  
// // // [を] やってしまって 二艘で ごたごた やっていたでしょう

ソノウチニ Y1ガ ココノ ガンペキサ ツッカカッテ (B ウーン)

そのうちに Y1が ここの 岸壁に 突っかかって (B うん)

ソノ モドッテ イヤンベ ソンデ ソッカラ ソノ ナミト

その 戻って いいあんばい [に] それで そこから その 波と

イッショニ シクナミト イッショニ オキサ デタンダツツーベヨ。

一緒に 引く波と 一緒に 沖に 出たのだというでしょうよ。

(C ハー) ソレ イマデノ ハナシダヨ。

(C はあ) それ 今の 話だよ。

058B : Y1ワ ココニ ノシアゲッチッタンダヨネ。

Y1は ここに のり上げてしまったんだよね。

059A : ノシアゲッチャッタンダ。 ソレガ ハナレデ イヤンベ

のり上げてしまったのだ。 それが 離れて いいあんばい [に]

デライダメデーダッタ。

出られたみたいだった。

ソンドカラ ソノ Y2ト アノ Y3カ° ソーユーワケデ コンダ

それだから その Y2と あの Y3が そういうわけで 今度は

ノッパグッチャッテ [13] Y3ワ イッチャッタンダイナー。

// // // // っってしまって Y3は 行ってしまったのだよな。

060B : ソー ソー ソー ソー。

そう そう そう そう。

061A : デライタノ。 Y2ワ デランネー。

出られたの。 Y2は 出られない。

062B : デランネー。

出られない。

063A : ソンデ ゴダゴダ ヤッテ ホーリナゲラレテ アレ Y2 カ° ナ。  
それで ごたごた やって 放り投げられて あれ Y2 がね。

064B : ウーン。シグオモイ シッチャタ。  
うん。死ぬ思いを してしまった。

065A : シッチャッタ。グルグル マーサレチャッタツツタッペ。  
してしまった。ぐるぐる 回されてしまったと言ったでしょう。

センタッキミテーニ。  
洗濯機みたいに。

066C : アー。  
ああ。

067A : ソンデ アレ パニックニ ナッチャッテンダロ イマ ビョーキ。  
それで あれ パニックに なってしまっているのだろう 今 病気。

068B : イマモ ソーダヨネ。  
今も そうだよ。

069A : ソレダンベツダヨ。  
それだろうというのだよ。

070B : イマモ コーイショーダヨネ。  
今も 後遺症だよ。

071A : コーイショーデ。ソー。\_\_\_\_\_。グアーッテ イガレタトモッタラ  
後遺症で。 そう。\_\_\_\_\_。ぐあーって 行かれたと思ったら

マタ イッキヨニ コンダ ガーッテ オキサ ダサレチャッタ、  
また 一挙に 今度は があって 沖に 出されてしまった、

ソン トキノ オモイシタラ。  
その 時の 思いをしたら。

072B : デモ ヨグ タスガッタネー。  
でも よく 助かったね。

073A : ヨグ アレ タスカッタッテ (B ネー) アレ。 アレ ドコデ  
よく あれ 助かったと言って (B ねえ) あれ。 あれ どこで

ドコサ ノッカッタタンダッペネ。  
どこに 乗りかかったのでしょうかね。

074B : トビオリタンダッペ フネガラ。 ムジューデ (A ネーッ)  
飛び降りたのでしょう 船から。 夢中で (A ねえ)

フネガラ キテ ガンペキー アガッタンダッツーヨ。  
船から 来て 岸壁に 上がったのだというよ。

075C : チョード シータトキニ ガンペキ アガッタンダッツ \_\_\_\_\_。  
丁度 引いたときに 岸壁に 上がったのだという \_\_\_\_\_。

076B : アガッタンダッツー \_\_\_\_\_。  
上がったのだという \_\_\_\_\_。

077A : ソー。 ダガラ ソノ タイミングカ°、 ヨグー (B ウーン) (C ウン)  
そう。 だから その タイミングが、 よく (B うん) (C うん)

カンガイテー カンガイモツカネーツツタ ヨグ オリダッツー \_\_\_\_\_。  
考えて 考えもつかないといった よく おりたという \_\_\_\_\_。

078B : ムガムジューダッタッテ。  
無我夢中だったって。

079C : ムジューダッタンダジャナイ?  
夢中だったのではない?

080A : ウーン オソラグネー。 ソンデ フネモ マダ イーヤンベ  
うん おそらくね。 それで 船も また いいあんばい

ノッカカッチャッテ アレ (C ソー。ソーソー)  
乗っちゃってしまって あれ (C そう。そうそう)

ウイチャッタンダッペ オカデ。 (C ソー) アソコノ  
浮いてしまったのでしょう 陸で。 (C そう) あそこの

ノシアゲッチャッタンダッペヨ (C ソー) (C ガンペキニ ノシアゲ \_\_\_\_\_)  
のり上げてしまったのでしょうよ (C そう) (C 岸壁に 乗り上げ \_\_\_\_\_)

{電話の音} ノシアガッチャッタンダッペヨ。  
{電話の音} のり上がってまったのでしょうよ。

ダカラ ソノ チョーシニ ノッカッテ ジブンモ オリタノガナ。  
だから その 調子に 乗っちゃって 自分も 降りたのかな。

081C : アー ソッカナ。  
ああ そうかな。

082A : オリライタノガナ。ナンデモ Y3ワ .....。  
降りられたのかな。なんでも Y3は .....

083B : オヨイダツツタヨ。ナンデモ。  
泳いだと言ったよ。 なんでも。

084A : ダカラ イッカイ モ コッチー キッチャッタツツタペヨ。  
だから 一回 × こちらに 来てしまったと言ったでしょうよ。

ナガサレテ。  
流されて。

085B : オヨイダダド。 オヨイダダド。  
泳いだのだと。 泳いだのだと。

086A : ナガサレテ (B ウン) コー (B ウン) マーサレチャッタツツタッペ。  
流されて (B うん) こう (B うん) 回されてしまったと言ったでしょう。

087B : アー。  
ああ。

088A : ソントキガ ヒドカッタジャンナイノ。  
その時が ひどかったのではないの。

089C : .....。  
.....。

090A : ソンデ ソノ ナミト イッショニ コンダ フネガ キッチャッタカラ  
それで その 波と 一緒に 今度は 船が 来てしまったから

ソノママ コツダ オキサ イガネーデ コッチサ ガンペキサ  
そのまま 今度は 沖に 行かないで こちらに 岸壁に

キッチャタンダッペ。 (C ウン) (B ウーン)  
来てしまったのでしょうか。 (C うん) (B うん)

コッチノ ミチサ。フネカ°。ソンデ ソノ ツイデニ ジブンモ ウー アレ  
こちらの 道に。 船が。 それで その ついでに 自分も ×× あれ

シテキタンダネーノ。 トビノッタタンダネーノカ。 トビノツタカ トビオリダカ。  
してきたのではないの。飛び乗ったのではないのか。飛び乗ったか 飛び降りたか。

(C アー) ソノ コーイショーナンダッペー アノ ビョーギワ イマノ。  
(C ああ) その 後遺症なのでしょう あの 病気は 今の。

091B : ソーダヨ。  
そうだよ。

092A : オソラグワ。 ググググーッテ キモチ ワルグナルンダツツモノ。  
おそらくは。 ぐぐぐぐーとって 気持ち 悪くなるのだというもの。

(C アー) ハー オカシーナー コレ マタ キタート オモート モ  
(C ああ) はあ おかしいな これ また 来たと 思うと ×

ハキケガ クンダツツモノ。  
吐き気が くるのだというもの。

093B : ネー。  
ねえ。

094A : ウーン、X6 ガ ヒッカブッタトキニ ヨク ユッタッペ ヤットダッペ  
ううん、X6 が 引きかぶったときに よく 言ったでしょう やっとでしょう

コノゴロ。ソノ センタッキニ マーサレテルミデーニ オッカネーツツッタモノ。  
この頃。 その 洗濯機に 回されているみたいに 怖いといったもの。

イマダニ ナグロガ アッテ オッカネーツツテルモ ウジデ。  
未だに なぐろが あって こわいと言っているもの 家で。

(B アー) ナグロト カゼワ ヤダツツッテ アレ サッサット  
(B ああ) なぐろと 風は 嫌だと言って あれ さっさと

キッチャウンダヨ。(B ウーン) モー ナンネンナンノヨ。(B ウーン)  
来てしまうのだよ。(B うん) もう 何年 [に] なるのよ。(B うん)

ソنداッテ マーダ ノコッテンダモノ。  
それだって まだ 残っているのだもの。

095B : ウーン。  
うん。

096A : アレダッテ X6 ダッテ オメー シッカブッタンダモノー  
あれだって X6 だって お前 引きかぶったのだもの

マーサレチャッタペヨー。(C ウーン) ウーン。  
回されてしまったでしょうよ。(C うん) うん。

(B ウーン) ソレコソ センタッキト  
(B うん) それこそ 洗濯機と

オンナジダツツッタモン。ハイッテッタノト オンナジダツツッタモン。  
同じだと言ったもの。 入っていたのと 同じだと言ったもの。

(B ウーン) ダッテ アソコノ アノー ット アット アノー  
(B うん) だって あそこの あの ×× あっと あの

チッコノ ハナッショカラ [14] (C ウン) カワメノ ハナッショカラネー [15]  
///の 先端から (C うん) 川前の 先端からね

(B ウンウン) コッチマデ ナガサレテキタンダカラ コッチマデ。  
(B うんうん) こちらまで 流されてきたのだから こちらまで。

097B : アー。  
ああ。

098C : アー ソー ソデデ ヤッタンダ ナインダ、  
ああ そう 袖で やったのでは ないのだ。

099A : チガウヨ \_\_\_\_\_。ソー。 (B ウーン) チッコノ  
違うよ。 \_\_\_\_\_。そう。 (B うん) ///の

ソノ ムコッカダカラ。 モー ハヤケーバ アノ アレ、 どこ？  
その 向こう側だから。 もう 早く言えば あの あれ、 どこ？

アノ アレ、 ホレ スイゾクカンノ シタアタリ？  
あの あれ、 ほれ 水族館の 下辺り？

アソコラヘンダ カワメノ アレ アノ コッチーカーダッテ  
あそこらへんだ 川前の あれ あの こちら側だって

ミナミグチダツツンダカラ。 (C アー) ソッカラ コッチマデ  
南口だというのだから。 (C ああ) そこから こちらまで

ナガサレテキタンダカラ マーサレテ  
流されてきたのだから 回されて

100C : へー。  
へえ。

101B : へー。ウン ダモノ。  
へえ。うん [それ] だもの。

102A : ンダモノ \_\_\_\_\_ センタッキニ マーサレテット オンナジダッペ。  
[それ] だもの \_\_\_\_\_ 洗濯機に 回されているのと 同じでしょう。

(B ウーン) ソレガ イマデモ アルツツタモン。モー ジューネンカラニ  
(B うん) それが 今でも あると言ったもの。もう 十年からに

ナッペヨ。 ジューネンジャ  
なるでしょうよ。十年じゃ。

103B : キカネーヨ。  
きかないよ。

104A : アッ チガウ ニジューナンネンニ ナンダヨ。  
あっ 違う 二十何年に なるのだよ。

105B : ジューネンヤ ソコラデワ キカネー、ウン。  
十年や そこらでは きかない、うん。

106A : ニジューナンネンニナンダ ソーソー。オジーサンカ° アレシテンダカラ  
二十何年になるのだ そうそう。お爺さんが あれしてるのだから

(C ウン) ニジューナンネンニ ナッテンダカラ。  
(C うん) 二十何年に なっているのだから。

ソーダ ニジューネンカラニ ナッテンダッテ ソーダモン。  
そうだ 二十年からに なっているのだから そうだもの。

ウダモノー Y2ラ マーダ イジネンダモノ ナルヨ。(C ソーダネー)  
それだもの Y2ら まだ 一年だもの なるよ。(C そうだね)

ウーン イマダニ オレ ナグロ オッガネーツツテルモノ。(C アー)  
ううん 未だに 俺 なぐろ 怖いと言っているもの。(C ああ)

ウン。 ダカラ キッチャウダヨツツッテ  
うん。 だから 来てしまうのだよと言って。

ヨーグ フラッテッケド。イマデ フライバナシンナッテンガ。(C ウン)  
よく 笑っているけど。今では 笑い話になっているが。(C うん)

ウーン ワースレランネツツッテタ アレワ。(C ウン) アノー \_\_\_\_\_  
ううん。忘れられないと言ってた あれは。(C うん) あの \_\_\_\_\_

オッカナクテ。(C \_\_\_\_\_) ウーン。  
恐くて。(C \_\_\_\_\_) ううん。

## 【2】 震災直後の津波と避難のこと

収録時間 5分00秒

### 話し手

話者A 女 1937 (昭和12)年 (収録時75歳)  
話者B 女 1940 (昭和15)年 (収録時71歳)  
話者C 女 1950 (昭和25)年 (収録時62歳)  
話者D 女 1957 (昭和32)年 (収録時54歳) [調査者1]

107B : ケッキョク ソノー オーアライワネ (A ウン)  
結局 その 大洗はね (A うん)

ハチメ シナンシテクダサイ。ダッタペヨー  
始め 避難してください。 だったでしょうよ。

トコロガネ コンダネ シナン (C シッ セヨ。ネー) セヨ。シナンセヨ。  
ところがね 今度はね 避難 (C ×× セよ。ねえ) セよ。避難セよ。

(C ハヤク) ソンデ ミンナガ ソノ コイカ° スコ° カッタラシーヨ。  
(C 早く) それで 皆が その 声が すごかったらしいよ。

シナンセヨカ°。ダガラ ギセーシャワ ヒトリモ デナカッタワネー。  
避難せよが。 だから 犠牲者は 一人も 出なかったわね。

コレワ タイシタモンダヨー。  
これは 大したものだよ。

108D : タイシタモンデスネー、 (B コノ) ゴメートルグライデシタカラネ  
大したものですね、 (B この) 五メートルくらいでしたからね

(B ソー。ソー) ツナミガ。トンデモナイ。  
(B そう。そう) 津波が。 とんでもない。

109A : コレダケノ ツナミデネ。  
これだけの 津波でね。

110B : コレダケノ ツナミデ (A ソー シシャガ ヒトリモ デネーダカラ)  
これだけの 津波で (A そう 死者が 一人も 出ないのだから)

シシャガ ヒトリモ デナイツツーノワ スゴイベヨー。  
死者が 一人も 出ないというのは すごいだろうよ。

111A : ダカラ ドレホド キタノカナット オモークレーダッペヨー。ンダッテ。  
だから どれほど 来たのかなと 思うくらいでしょうよ。 それだって。

(B ソー) ネー ミンナ ハヤガッタツツタヨー。

(B そう) ねえ 皆 早かったと言ったよ。

(B ウン) オースギノ [16] ホーダッテ オバーサン キネーガラ

(B うん) 大貫の 方だって お婆さん 来ないから

X7チャン [17] アダシノゴト マッテタンダツツモノ

X7ちゃん 私のこと [を] 待っていたのだというもの

オモテデ。ソー。ダケド ハヤグ ウエサ イダホーガ イーヨッテユッテ。

表で。 そう。だけど 早く 上に 居た方が いいよと言って。

ソンド チョード ウジノ シタマデ キタンダツツカラ (C ウーン ウン)

それで 丁度 家の 下まで 来たのだと言うから (C うん うん)

ミズワ。ダケド

水は。 だけど

ソコデ トマッタカラ (C ウン) アタシモ

そこで 止まったから (C うん) 私も

ウエサ イガネーデ オガーサン クンノ

上に 行かないで お母さん [が] 来るのを

マッテタンダツツッテ。(C ウン) アダシワ ミズガ キレーニ シーテカラ

待っていたのだから。(C うん) 私は 水が きれいに 引いてから

カエッテキタンダモノ。 コッチサ。

帰ってきたのだもの。 こっちに。

112B : エー。

ええ。

113A : キレーニ ナッチャッテ ゴミダラケン トコニ カエッテキタノ。

きれいに なってしまって ゴミだらけの ところに 帰ってきたの。

(C アー) ソレホド カカッタノ。(C ハー)

(C ああ) それほど かかったの。(C はあ)

114B : へー。

へえ。

115A : ナンチカンヨ。モノノ オメー サンジップンモ カカンネーデ

何時間よ。 ものの お前 三十分も かからないで

キラレットコー。  
来られるところ。

116B : ダモノ ヨメサンラモ シンパイシチャッタッペヨー。デガケデ  
それだもの 嫁さんたちも 心配してしまいましたでしょうよ。出かけて

117A : シンパイシタツツタ。デンワモ (C レンラクモ ナンニモ デキナイシ)  
心配したと言った。電話も (C 連絡も 何も できないし)

ツージネーベヨー。ソー。  
通じないだろうよ。そう。

ソシタラ ナニヨ コレ ッテユッタラ。ツナミデ ミズカ°  
そうしたら 何よ これ と言ったら。津波で 水が

キタンダッツ。ツナミナンカ キタノワ ゼンゼン ワカンネーダカラ。  
来たのだという。津波なんか 来たのは 全然 わからないのだから。

ナンニモ カワンネンダ。ジシンダケシカ。  
何も かわらないのだ。地震だけしか。

118B : アソコラヘンマデ キタノ ツナミノ ナミカ°。  
あそこら辺まで 来たの 津波の 波が。

119A : ソーダヨ。オレゲノ シタノ アレ アノ X8 [18] デンキヤガ  
そうだよ。俺の家の 下の あれ あの X8 電気屋が

アッペヨ。 (B ウン)。アソコマデ キタツツタヨ。ウン。ミズワ  
あるでしょうよ。(B うん)。あそこまで 来たと言ったよ。うん。水は

120B : アソコ イグラカ タカクナッテツカラネ。  
あそこ くらか たかくなっているからね。

121A : ソー サガンナッテカラ。ダカラ アノ X9 ガ [19] ゼンブ シター  
そう 坂になっているから。だから あの X9が 全部 下に

ハイッチャッタツノガ アレ ソレダヨ。(B アー) アノ アノ  
入ってしまったというのが あれ それだよ。(B ああ) あの あの

チリョーシツ ミンナ ハイッチャッタツツタモノ。  
治療室 皆 入ってしまったと言ったもの。

122B : エー。  
ええ。

123A : ソー。  
そう。

124C : ダカラ Y7ノ X10 サンチナンカネ モー  
だから Y7の X10 さんの家なんかもね もう

スメナクナッチャテ \_\_\_\_\_。  
住めなくなってしまうて\_\_\_\_\_。

125A : ソー スメナクナッチッタペヨ。 ミンナ。  
そう 住めなくなってしまうたでしょうよ。 皆。

126C : コッチー イテンシタ。  
こちらに 移転した。

127A : ダカラ ミチシタマデワ シクイトコマデワ キタンダヨ。(B キタンダ)  
だから 道下までは 低い所までは 来たのだよ。(B 来たのだ)

ダカラ ソコマデワ イカイナミワ  
だから そこまでは 大きい波は

パート キタンダローケド ソンナニ オーキクワ (B ウン) (C ウン)  
ばあっと 来たのだらうけれど そんなに 大きくは (B うん) (C うん)

キナカッタタンダッペ キット  
こなかったのでしょう きっと

ナンカイモワ (C ウーン) ウン。  
何回もは (C うん) うん。

128B : ウチゲノ ウチケノ ホーワ Y8 [20] ホーガラ ド キタノ。(C ハー)  
×××× 私の家の 方は Y8の 方から × 来たの。(C はあ)

Y8ノ ホーガラ Y9ノ [21] ホーイト ウジエ キタノ。  
Y8の 方から Y9の 方へと 家へ 来たの。

ウジゲノ ホーイ [22]。  
私の家の ほうへ。

129A : ダガラ アイマアイマ トーツタンダツツーベヨ。  
だから 合間 合間 [を] 通ったのだというだろうよ。

130C : マンナガカラ コー アフレタノガ コー キタンジャナイ。  
真ん中から こう あふれたのが こう 来たのではない。

ダガラ Y8ノ ホーカラ。  
だから Y8の 方から。

131B : キタンダネーケー。  
来たのではないかい。

132A : ソー シクイトコ シクイトコ エッタンダッペ コー。  
そう 低い所 低い所 行ったのでしょ う こう。

133B : ソー。  
そう。

134A : ダッテ ココダッテ ソコデ トマッタンダッペヨー [23] 。  
だって ここだって そこで 止まったのでしょ うよ。

135C : ソーソーソー。  
そうそうそう。

136A : Y10ノ ワキデネ。  
Y10の 脇でね。

137C : オーダーリデ トマッテ。  
大通りで 止まって。

138A : ソー。ソー。 ソコノ ソコノ。  
そう。そう。 そこの そこの。

139B : ウジケノ シタノ、 シタワ モー ゼンメツクッチッタノ。  
私の家の 下の、 下は もう 全滅をくってしまったの。

140A : ソー ソデ シタワネ ヌマヤラ アノ アレー (C Y11)  
そう それで 下はね ~~~~~ あの あれ (C Y11)

Y11 ラガ ミズマーリダッペヨー。(Bソー。ソー) ウーン。  
Y11 らが ~~~~~ でしょうよ。(Bそう。そう) うん。

141B : ゼンメツ クッチッタノ。  
全滅 [を] くってしまったの。

142A : アー ダッペナー。 ソコライワネー。(B ソー) ウーン。  
ああ でしょうね。 そこら辺はね。(B そう) うん。

ソンデ アンタラ ドコイ ッデ ニゲタノ?  
それで あなたら どこに ×× 逃げたの?

アンタラワ タガイガラ ウジニ イダンダッペガ。  
あなたらは 高いから 家に いたのでしょうが。

143B : アタシラ ミナトイ カイモノニ イッデダノ。  
私らは 港に 買い物に 行っていたの。

144A : ヤッパリ。  
やっぱり。

145B : ヤッパリ。  
やっぱり。

146A : ンデ ツナミガ キダノ ワガンナガッタノ？  
それで 津波が 来たの [が] わからなかったの？

147B : イーヤ スグ カイツチキタヨ。モー ソレ イッテダッペ カイモノニ。  
いいや すぐ 帰ってきたよ。 もう それ 行ってたでしょう 買い物に。

148A : ウーン。ウン。  
うん。うん。

149B : ネ。  
ね。

150A : ウン。  
うん。

151B : ソーシタラ スゴイノ、ユレデ。 (C ユレデネー)  
そうしたら 凄いの、 揺れて。 (C 揺れてね)

モー ゴーリヨ ナニヨッテ (C ウン)  
もう 草履よ 何よって (C うん)

チンレツシダモノガ ワーッテ オッコッテキタノ。 (C ウーン) (A ウン)  
陳列したものが わあって 落ちてきたの。 (C うん) (A うん)

152B : ソレガラ ハヤグ カインベッテ。 カイモンバシ [24]、 (A ウン) ノ  
それから 早く 帰ろうって。 海門橋、 (A うん) の

チカクダッタカラ (A ウン ウンウンウン) ミセヤガ。  
近くだったから (A うん うんうんうん) 店屋が。

カイモンバシ ヌゲテ ウジエ ツイダラ コンダ X11 ガ [25]  
海門橋 [を] 抜けて 家に 着いたら 今度は X11 が

(A ウン) カーチャーン フネダスドー ツツーノ。

(A うん) 母ちゃん 舟を出すぞ と言うの。

153A : アー ソレカラ ダシタノ?

ああ それから 出したの?

154B : ソーダヨー。ソレガラ ダシタノ。

そうだよ。 それから 出したの。

155A : アー。(B ソーッ) ソンデ マニアッタノ。

ああ。(B そうっ) それで 間に合ったの。

156B : マニアッタノ。カーチャーン フネダスカンナーッテ。

間に合ったの。母ちゃん 船を出すからなあと言って。

157A : アー。

ああ。

158B : ソー ソンデ ソレガラ イッタノ。

そう それで それから 行ったの。

159C : ダカラ ニサンジュップンノ ヨユーワ アッタンダヨネ。

だから 二、三十分の 余裕は あったのだよね。

160B : アッタンダヨ。

あったのだよ。

161C : ジシंगा アッテカラ。(A アー ソーケ) ツナミガ クルマデワ。

地震が あってから。(A ああ そうかい) 津波が 来るまでは。

162A : アー、アーソーカ。(B ソー) アー ソノ ジカントイニモ

ああ、ああそうか。(B そう) ああ その 時間帯にも

ニゲラレタノワ ヌゲラレタワネ。(C ウンウン)

逃げられたのは 逃げられたわね。(C うんうん)

ソノ ツナミガ クンノワ ワガンネヨネ。

その 津波が 来るのは わからないよね。

163C : マサガ ソンナ ツナミガ クットワ オモワナイケド \_\_\_\_\_。

まさか そのような 津波が 来るとは 思わないけど \_\_\_\_\_。

164A : オーキナ

大きな

165B : ダイサンパカ° イカカタノ [26] 。  
第三波が 大きかったの。

166C : ソー。  
そう。

167B : ダイイッパワ サンジュップンコ° ニ。 ジシンカ° アッタ  
第一波が 三十分後に。 地震があった

サンジュップンコ° ニ ダイイッパガ キタノネ。(A ウーン) ソンデ  
三十分後に 第一波が 来たのね。(A うん) それで

イチジカンコ° ニ ダイニハカ° キタノネ。  
一時間後に 第二波が 来たのね。

ソンデ (A アー) コノ ダイサンパガ イカカタノ。  
それで (A ああ) この 第三波が 大きかったの。

コレカ° ニチカンコ° ダッタノ。 コレカ° 。  
これが 二時間後だったの。 これが。

168C : ソレカ°  
それが。

169B : コレカ° (A アー) スゴカタノ。  
これが (A ああ) すごかったの。

170A : アー。  
ああ。

171B : ソー。ソンデ ソントキ ウジゲデ ジドーシャワ  
そう。それで そのとき 私の家の方で 自動車は

オイデッチャウベヨー。  
置いて行ってしまうでしょうよ。

172A : ウーン。  
うん。

173B : ソンダカラ イカイ クルマ X12 チャーン [27] 。  
それだから 大きい 車を X12 ちゃん。

チクヨージ [28] マデ モッテキテ。  
蓄養場まで 持ってきて

X12 チャーン タカダイサ コレ モツテゲツテ。(A ウーン) モツ  
X12 ちゃあん 高台に これ [を] 持っていけと。(A うん) ××

アノ モツテガシテ、(A ウーン) ジブンワ コンドウ ジブンガ  
あの 持って行かせて、(A うん) 自分は 今度は 自分が

ノツテキタ バイクオ モツテキテ。  
乗ってきた バイクを 持ってきて。

174A : アー。  
ああ。

175B : ソレオ イレデ。(A ウーン) コンドウ オドコッコカ° イダカラ (C ウーン)  
それを 入れて。(A うん) 今度は 男の子が いたから (C うん)

アッ アノー シンシャ ダッタカラ クルマ (A ウ ウン ウン) アダシモ。  
あっ あの 新車 だったから 車 (A う うん うん) 私も。

ハヤク コレ モツテ オバーサンゲノ ホーイト ニゲテクンロツテ。  
早く これを持って お婆さんの家の 方へと 逃げてくださいとって。

(A ウーン) デ ワタシワ カモツノ ケーオ  
(A うん) [それ] で 私は 貨物の 軽を

モツテンガラツテ (A ウーン) クルマ ゼンブ イドーシタノ。  
持って行くからと言って (A うん) 車を 全部 移動したの。

(C ウーン)  
(C うん)

ウジゲワ ニゲットゴ アツカラ  
私の家は 逃げるところ [が] あるから

オバーサンゲカ°。(A ソーソー タガイトコサ エツチャエバネ) アソコサ  
お婆さんの家が。(A そうそう 高い所に 行ってしまえばね) あそこに

シナンシタカラ ホカノ シトミツチャーニ ホカサ シナンシタノ  
避難したから 他の 人みたいに 他に 避難したの

ナンダノツツーノワ ナガッタヨ。  
なんなのというのは なかったよ。

178A : ウーン デ アソコデ ミンナ エラレラモンネ。  
うん で あそこで 皆 居られたものね。

179B : ミンナ イラレダノ。  
皆 居られたの。

180A : アー。  
ああ。

181B : X13 ガ イッタッペヨ サイショ。 ソシタラ X13 ゲワ  
X13 が 行ったでしょうよ 最初。 そうしたら X13 の家は

ホレ X14 サンラノ (C アー) オヤダノ イッパイダッペヨー。  
ほれ X14 さんらの (C ああ) 親だの いっぱいでしょうよ。

(A ウン ウン ウン ウン。ウン) ネ。  
(A うん うん うん うん。うん) ね。

アー ソーダ オーバーサンゲカ° イーナート モッテ  
ああ そうだ お婆さんの家が いいなあと 思って

(A ウーン ソーソーソーソー) コンダ オーバーサンゲサ イッチッタノ。  
(A うん そうそうそうそう) 今度は お婆さんの家に 行ってしまったの。

182A : アソコ アイテンダモノネー。  
あそこは 空いているのだからね。

183B : ソー ソー。  
そう そう。

184A : アー。アソコマデワ イッタラ モ ゼンメツダモンネ。  
ああ。あそこまでは 行ったら もう 全滅だからね。

(B ソー) ドコモカコモネ。  
(B そう) どこもかしこもね。

185B : アソコマデイッタラ モー (A ソーソーソーソー) ゼンメツダヨ。  
あそこまで行ったら もう (A そうそうそうそう) 全滅だよ。

186C : オーアライノ マチ ナグナッチャウ。  
大洗の 町 [が] なくなってしまう。

187A : ナグナッチャウ。  
なくなってしまう。

188B : ナグナッチャウヨ。 トーコーダイマデイッタラ [29] ナグナッ~~~~~。  
なくなってしまうよ。 東光台まで行ったら なくなっ~~~~~。

【3】 陸での避難のこと

収録時間 1分18秒

話し手

話者A 女 1937 (昭和12)年 (収録時75歳)

話者B 女 1940 (昭和15)年 (収録時71歳)

話者C 女 1950 (昭和25)年 (収録時62歳)

189C : シンサイノ トキニ ドートカッテ イッテタ シンサイノトキニ  
震災の ときに どうとかとって 言ってた 震災のときに

ニゲットキニ ドートカ コートカ (B サキニケ) ソーイウ オハナシオ。  
逃げるときに どうとか こうとか (B 先にかい) そういふ お話しを。

(A ウーン) オバチャンラ ドコニ ニゲタノ。(E ソー)  
(A うん) おばちゃんたち [は] どこに 逃げたの。(E そう)

190A : オッラワ アノ アレダヨ サイコーインダヨ [30]。  
俺は あの あれだよ 西光院だよ。

191C : アー サイコーイン。  
ああ 西光院。

192A : サイコーインサ イッダノ。ソー オレゲノ ウエノ アノー  
西光院に 行ったの。そう 俺の家の 上の あの

シンコ<sup>°</sup> ンシューノ オテラガ アンダヨ。(C ウンウンウン) ソコサ  
真言宗の お寺が あるのだよ。(C うんうんうん) そこに

(C アー ソ オテライ ニゲタノ) ソー ソンデ  
(C ああ そう お寺に 逃げたの) そう それで

モーフオ ミンナ モッテキデアッタノデ (C ウン) モーフ カリデ  
毛布を 皆 持ってきてあったので (C うん) 毛布 [を] 借りて

(C ウーン) ソンデ ソコサ フタハクシダノガ アタシワ。  
(C うん) それで そこに 二泊したのか 私は。

193C : アー ソー。  
ああ そう。

194A : デ X7 チャンワ イッパグ ウジニイデ (C ウンウン)  
で X7 ちゃんは一泊 家に居て (C うんうん)

イッパグワ アノ クルマデ (C ウン)  
一泊は あの 車で (C うん)

チューシャジョーニイダノ コドモラト。(C ウン) ムスメラトネ。(C ウン)  
駐車場に居たの 子供たちと。(C うん) 娘たちとね。(C うん)

ンデ オバーサンワ アノ サムイガラー (C ウン)  
それで お婆さんは あの 寒いから (C うん)

アノー オテラサ イッチャイナッテ フトンモアルシー (C ウン)  
あの お寺に 行ってしまいなと 蒲団もあるし (C うん)

アレダカラッテ アノー ストーブモ タイテアッペカラッテ  
あれだからと あの ストーブも 焚いてあるでしょうからと

(C ウーン ウン) ユーノデ アノー アタシワ アノ マコト  
(C うん うん) 言うので あの 私は あの 孫と

アノー ソッ オデラサ イッデタノ。 ウーン デ X7チャンラワ  
あの ×× お寺に 行っていたの。 うん で X7ちゃんたちは

ヒトバン アノー クルマン ナガ。ウーン ソンデ オメー  
一晩 あの 車の 中。 ううん それで お前

スーネーデイダ タバコ スッチャッタダヨ オメー。  
吸わないでいた たばこを 吸ってしまったのだよ お前。

195C : アレー、 ナンデー？  
あれえ、 なんで？

196A : コーフンシッチャッテ。(B {笑}) ドカドカドカドカ シッチャッテ  
興奮してしまつて。(B {笑}) どかどかどかどか してしまつて

ソンデ コドモラカ° スッテ ミンナカ° スッテンダヨ。(C ウン)  
それで 子供らが 吸つて 皆が 吸つているのだよ。(C うん)

ハアー ダメダ オジツガネーカラ タバコ イッポン  
はあ だめだ 落ち着かないから タバコ [を] 一本

クンニヤーツツッテ (C ウーン) ソンデ ウッ モラッテヨー。  
くださいと言つて (C うん) それで ×× もらつてよ。

197C : タバコ スッタラ オジズイダ？  
たばこ [を] 吸つたら 落ちついた？

198A : タバコ スッテ ウー オジズイチャッタラ オメ ソコデ プガプガ  
たばこ [を] 吸って うう 落ちついてしまったら お前 そこで ぷかぷか

スツチャッタモノ コンダ オッポエツチャッタペヨー オメー。  
吸ってしまったもの 今度は 覚えてしまったでしょうよ お前。

マダ オメー スゴシノ アイダ、 スツチャッタヨー。  
また お前 少しの 間、 吸ってしまったよ。

(C セツ セツカク ワスレデダノニ。 ヤメダノニ) ソー  
(C ×× セツかく 忘れていたのに。 止めたのに) そう

セツガグ ヤメテダノニ。 イジネン ヤメデダダカラ。 (B {笑})  
セツかく 止めていたのに。 一年 止めていたのだから。 (B {笑})

199B : イマモ イッ。  
今も ××。

200A : イマワ モー ヤメデルヨ アー。 ソー。  
今は もう やめているよ ああ。 そう。

#### 【4】 陸での避難場所から沖での避難を見守っていたこと

収録時間 2分03秒

#### 話し手

話者A 女 1937 (昭和12) 年 (収録時75歳)  
話者B 女 1940 (昭和15) 年 (収録時71歳)  
話者C 女 1950 (昭和25) 年 (収録時62歳)  
話者E 女 1969 (昭和44) 年 (収録時43歳) [調査者2]

201A : ダカラ コノ ヤゴー ユーツツート コノ オーアライワ ダイタイ  
だから この 屋号 [を] 言うというの この 大洗は 大体

ワカンダ ナマエデワ ワガンナインダ。  
わかるのだ 名前では わからないのだ。

202B : ワガンナインダワ ヤゴーガ イジバン イーノ。  
わからないのだわ 屋号が 一番 良いの。

203A : ソーソーソーソー。  
そうそうそうそう。

204E : ウーン。デ ヤゴーガアッテ フネノ ナマエガ アッテ。  
ううん。で 屋号があつて 船の 名前が あつて。

205A : カ ドッチカガッテ ユエバ ワガル。  
か どちらかがと 言えば わかる。

206E : エー エー エー。  
ええ ええ ええ。

207A : タダ Y12 サンデ [31] アノー アノー Bナンテユッタッテ  
ただ Y12 さんで あの あの Bなどと言っても

(B ワガンネ) チットモ ワカンネ。  
(B わからない) 少しも わからない。

ウジナンカ Aナンテ シバーラク ワガンナカッタモン。  
家など Aなんて しばらく わからなかったもの。

208B : ワガンネーネー。  
わからないね。

209A : Y13 Y13 ッテ [32] トーッテタカラ。Aサンテ ダレヨッテ  
Y13 Y13 と 通っていたから。Aさんて 誰よって

(B ソーダヨネ) ユー ユワレタコドアッタモン。  
(B そうだよね) ×× 言われたことあったもの。

210C : Y13 ノ オバチャンッテ ワカルモンネ。  
Y13 の おばちゃんて わかるものね。

211A : ソー ソレデ トーッテタモンネ ソーソー。  
そう それで とおってたものね そうそう。

212E : ネー ダカラ キョー X7サンガ アノ オキオ ミテタラ (A ウン)  
ねえ だから 今日 X7さんが あの 沖を 見ていたら (A うん)

ウチノ フネダッテ(A ウン ソー)ワカッタッテ ユークライ ウチノ\_\_\_\_\_。  
家の 船だつて (A うん そう) わかったと いうくらい 家の\_\_\_\_\_。

(C アー。アー アー)  
(C ああ。ああ ああ)

213A : アノ ヒトワ メオトブネダカラ。(E アー) フタリデ デテッカラ。  
あの 人は 夫婦船だから。(E ああ) 二人で 出ているから。

(E ハイハイハイ。ウン)

(E はいはいはい。うん)

214A : ダカラ ヨク ジブンノ。  
だから よく 自分の。

215E : ウーン ウン、ウチノ フネダッテ (A ソー) ワカッタ。(A ソー)  
うん うん、家の 船だって (A そう) わかった。(A そう)

216B : ドッカラ ミデタンダ。  
どこから 見ていたのだ。

217A : ウン ダカラ (C \_\_\_\_\_) Y14 トコ [33] Y14 トコ。  
うん だから (C \_\_\_\_\_) Y14 の所 Y14 の所。

(C Y14 \_\_\_\_\_) ウエー アガッタンダヨ オッララワ。

(C Y14 \_\_\_\_\_) 上に 上がったのだよ 俺たちは。

218B : アー アガッタノケー。  
ああ 上がったのかい。

219A : アガッタノ。 ソー。 ソノ オハガノ トコノ コッチノ ワギニ  
上がったの。 そう。その お墓の 所の こちらの 脇に

チョッ コー チョット タカグナッテンダヨ。(C アー)  
××× こう少し 高くなっているのだよ。(C ああ)

ソー ソコサ クルマ オイデ ミンナ X15 ラダノ  
そう そこに 車 [を] 置いて 皆 X15 らだの

(C ウンウンウン) ナニカデ ミンナシテ イダノ。アソコ シナンシデダノ。

(C うんうんうん) 何かで 皆して 居たの。あそこに 避難していたの。

220B : アー。  
ああ。

221A : アー ソンデ オバーサンワ オデラニ イダノ。ソンデ X7 チャンラ  
ああ それで お婆さんは お寺に いたの。それで X7 ちゃんらは

フネガ オギニ アッカラ ソノ アカリガ イグラカッツ (C ウンウンウン)  
船が 沖に あるから その 灯りが いくらかずつ (C うんうんうん)

クラクナッテモ  
暗くなっても

アガリガ ワカッペヨ。 ソイデ ウゴイテンノモ ナニモ。ソイデ  
灯りが わかるでしょうよ。それで 動いているのも 何も。 それで

オーバーサン フネ ミナガラ ココニ イッカラ ワダシワ。オーバーサン  
お婆さん 船 [を] 見ながら ここに 居るから 私は。 お婆さん

サムイガラ アッチ イギナ チュッテ。(A アー)  
寒いから あちら [に] 行きなさい と言って。(A ああ)

ンデ アタシワ オテラサ イッテ。 X15 ラト  
それで 私は お寺に 行って。 X15 たちと

ミンナシテ イタノ、X7 チャン、(A アー) ソノ アソコニ。  
皆して 居たの、X7 ちゃん、(A ああ) その あそこに。

222E : アノ チョーット (A クルマノ ウイデ)  
あの 少し (A 車の 上で)

コーニ オキガ ミエルト コロカラ ミテタンデスカネ。  
このように 沖が 見える 所から 見ていたのですかね。

223A : ソー チョーックラ チョード アイテデネ チョード マオキガ [34]、  
そう 少し 丁度 空いていてね 丁度 真沖が、

チョード トマッテトコガ ミエタンダヨ。(E ソーソーソーソー)  
丁度 とまっている所が 見えたのだよ。(E そうそうそうそう)

224B : アー。  
ああ。

225A : ダカラ ゴハン トリニ キタノ オレケ° ノ X16 ナンダト [35]。  
だから ご飯を 取りに 来たのは 俺の家の X16 なのだって。

226C : ア ソー。  
あ そう。

227A : オレケ° ノ フネデ (C アー) トンデ キタンダト。  
俺の家の 船で (C ああ) とんで 来たのだって。

228B : アー ソーナノケー。  
ああ そうなのかい。

229A : アノ キノー ゴハン (B ウン) トリニ (B ウンウン) (C ウン)  
あの 昨日 ご飯を (B うん) とりに (B うんうん) (C うん)

キタツチュッタッペヨ。 ソンデ トチューマデ  
来たといったでしょうよ。 それで 途中まで

キタノワ。 X16ダッタンダド。 X16ノ (C ソーソー) フネダッタンダト。  
来たのは。 X16だったんだと。 X16の (C そうそう) 船だったのだって。

(C アー) ソレニワ ナンニンカ ノッテタンダローケド。 (C アー)  
(B ああ) それには 何人か 乗っていたのだろうけれど。 (C ああ)

230B : ソーソーソーソー。  
そうそうそうそう。

231A : ヒトリデワ ネ ヒトリデ イッテン \_\_\_\_\_ ヒトリジャ  
一人では × 一人で 行っているの \_\_\_\_\_ 一人では

(B ウーン ソーソー) ヨコサネーカラ。 (C ウン) アー デモ ウジノ  
(B うん そうそう) 寄こさないから。 (C うん) ああ でも 家の

フネデ キタンダッテ。  
船で 来たのだって。

232B : ナガカ° (A ウンウン) ツナカ° ハッチャッテ ゴミデ (A ウン)  
中が (A うんうん) 綱が 張ってしまって ゴミで (A うん)

イゲナクテ ナカカ° テンマデ イッタ。  
行けなくて 中が 伝馬 [船] で 行った。

233A : ソーダッペネ。 (C アー) (B ナカガ テンマ)  
そうでしょうね。 (C ああ) (B 中が 伝馬 [船])

ソコサ トンデ クンノニワ アーノ ホレ ヤクインサンラカ° (C ウーン)  
そこに とんで くるのには あの ほれ 役員さんたちが (C うん)

イガネケリャナー ウコ° カネキャ ダレモナ ウコ° カネモ。 ソー。  
行かなければなあ 動かなければ 誰も 動けないもの。 そう。

234B : イヤー アントキノ ニキ° リノ サワキ° ワ スコ° イヨー [36] 。  
いや あの時の 握り飯の 騒ぎは すごいよ。

## 大洗町談話A（自由会話）注記

- [1] カーチャンノミセ  
大洗町磯浜町にある大洗町漁協直営の飲食店。大洗で水揚げされた旬の魚を提供している。話者Bと話者Cは、ここで働いている。
- [2] ゴケンチョー  
水戸市五軒町。
- [3] X1  
震災の時、話者Aと一緒に出かけていた人の息子。
- [4] X2  
震災の時、話者Aと一緒に出かけていた人。
- [5] ノッパグレ ハゴッタンデ  
間に合わなくて乗り遅れたという状況を表している。
- [6] Y1  
屋号。船で沖まで避難するために港にいた人。
- [7] Y2  
屋号。船で沖まで避難するために港にいた人。
- [8] Y3  
屋号。船で沖まで避難するために港にいた人。
- [9] Y4  
屋号。船で沖まで避難するために港にいた人。
- [10] Y5  
屋号。船で沖まで避難するために港にいた人。
- [11] カッポッテ  
言い切りの形はカッポル。意味は「そのままにしておく」。この場合は「船を乗り捨てておいて」という意味で使われている。
- [12] スコロク  
船のスクリューにロープや網が絡まって動かなくなること。
- [13] ノッパグッチャッテ  
「ノッパグル」と「ーしてしまつて」が接続した形式。意味は「乗り遅れてしまつて」。
- [14] チッコノハナッチョ  
チッコは「堤防の切れた所」。ハナッチョは「先端」。
- [15] カワメノハナッチョ  
カワメは「川前」。ハナッチョは〔14〕に同じ。この場合は「那珂川の流れ着いた先の所」をさしている。
- [16] オーヌギ  
大洗町大貫町。話者Aの住んでいる地域。
- [17] X7  
話者Aの息子の妻。
- [18] X8  
大貫町にある電気屋の名前。
- [19] X8  
大貫町にある接骨医院の名前。
- [20] Y8

屋号。大洗町明神町の集会所あたりにあるお宅。話者Bの宅の西方向に当たる。沖に向かう堤防、すなわちオキテー（沖堤）の方から津波が上がってきた。

[21] Y9

屋号。〔20〕と同様に、大洗町明神町の集会所あたり。話者B宅の西方向にあたる。

[22] ウジエ キタノ。ウジゲノ ホーイ。

話者Bの家は、〔20〕〔21〕の家より東に位置する。オキテー（沖堤）の北あたり。

[23] ココダッテ ソコデ トマッタ

ココは、調査会場となった「大洗町漁業協同組合の事務所」をさしている（写真1・写真2参照）。写真1は、津波の水が上がってきた位置を指している。壁には、津波の水が上がってきた跡が残っている。

[24] カイモンバシ

海門橋。大洗と那珂湊を結ぶ、那珂川に架かる橋。

[25] X11

話者Bの息子。

[26] イカイ

大きい。声がイカイ、波がイカイ、背がイカイというように使える。

[27] X12

話者Bの息子の妻。

[28] チクヨージ

畜養場。収穫した魚を生きたまま泳がせておくところ。

[29] トーコーダイ

大洗町東光台。

[30] サイコーイン

西光院。大貫町にあるお寺。（写真2・写真3参照）

[31] Y12

話者Bの屋号。

[32] Y13

話者Aの屋号。

[33] Y14

屋号。西光院より少し上に上がったあたり。（写真4・写真5参照）

[34] マオキ

真沖。陸にいる自分の立っているところから見て、海の先の沖の方。X7の話しによると、マオキにいる自分の家の船が、避難した高台から確認できたという。震災の次の日、港に戻ってくる1艘の船が、夫の船だと分かったときには「港はまだ危険だというのになぜ戻ってくるのだ」と心配したという。港に避難している人たちの食料の調達に戻ったものだったということが後からわかった。

[35] X16

話者Aの息子。陸で避難した高台から船を見ていたX7の夫。

[36] アントキノ ニギリノ サワギワ スゴイヨー

陸では、港に避難している船に食料を届ける算段をしていたのだという。どうやって食料を調達したらよいか、どうやって届けたらよいかを考えていたという。準備できた食料は少なく、港には津波で流された網や綱や道具が沈んでいた。しかし、知恵を出し合い、意見をたたかわせ、少ないながらもなんとか食料を届けたという。話しによると、沖への避難者には、握り飯が1つずつわたったようだとのことである。

### 3-3 大洗町の談話B：場面設定会話

#### 話し手

話者A 女 1937 (昭和12)年 (収録時75歳)

話者B 女 1940 (昭和15)年 (収録時71歳)

話者C 女 1950 (昭和25)年 (収録時62歳)

(1) あいさつ：朝、道端で友人に会ったときのやりとり

001B：オハヨー。 {笑} (AC {笑})

おはよう。

002A：ア ソー ソー オハヨーッテ ソー ソー。

あ そう そう おはようって そう そう。

003C：オハヨーゴザイマース。(A ウン ソー ウン ホ~~~~) デタンデショー。  
おはようございます。(A うん そう うん ×~~~~) 出たのでしょう。

004B：アー デダヨー。

ああ 出たよ。

005A：オハヨー。 モー イグノー。ウーン ナニ タンパ [1] ハイルッテ  
おはよう もう 行くの。 うん 何 短波 [で] 入ると

ユッタノー フネー。ウーン フネー。ウーン。  
言ったの 船。 うん 船。 うん。

006C：ウン モー ハイルッテ ユーカラ キテミタンダ。

うん もう 入ると 言うから 来てみたのだ。

007A：アレー ソーッケー (C ウーン) ナンダー オレミテー ナントカ  
あれ そうかい (C うん) なんだ 俺~~~~ 何とか

ユッテ ナカッター。(B {笑})

言って いなかった。(B {笑})

008C：ウーン ナンカネー (A ウン) サンコ ハイッタトカ ヨンコ

うん なんかね (A うん) 三個 入ったとか 四個

ハイッタトカッテ ユッテタヨー。

入ったとかと 言っていたよ。

009A：アー ソッケー (B {笑} ウンマイ) ンジャー オレモ ホレ

ああ そうかい (B {笑} 上手い) それでは 俺も ほれ

ジテンシャデ インカラー (C ウン ウン) ジャー アトカラ インカラー  
自転車で 行くから (C うん うん) では 後から 行くから

デー ハイッタトキワ タノムヨー。  
それで 入ったときは 頼むよ。

010C : ハイヨー サキ (A アーイ) イッテッカンネー。  
はいよ 先に (A はい) 行っているからね。

011A : アイヨー。  
はいよ。

012C : アーイ。(B デ イーネ)  
はあい。(B [それ] で いいね)

013B : ジャーネー。  
ではね。

《解説》

朝のあいさつはオハヨーである。続けて仕事仲間同士としての会話が交わされ、〈先に行っている〉という宣言をしてからジャーネーで別れる。

(2) あいさつ：昼、道端で友人に会ったときのやりとり

001C : オバチャン ナニ オワッタノー カエンノー。  
おばちゃん 何 終わったの 帰るの。

002A : アー ソー ソー ハイ。ウーン ウン。(C ソンデ イー) オワッタンダー。  
ああ そう そう はい。うーん うん。(C それで 良い) 終わったのだ。

ウーン ツツ アノ。  
うん ×× あの。

003C : ヨカッタノー。  
良かったの。

004A : イヤー ダメダワー キョーワー。  
いやあ だめだわ 今日は。

005C : アー ソー。(B {笑})  
ああ そう。(B {笑})

006A : ウーン オレゲラワ。ホカワ アッタンダガー (C ウーン) オレゲデワ  
うん 俺の家らは。他は あったのだが (C うん) 俺の家では

(C アレー) ナガッター。ウン。

(C あれえ) なかった。うん。

007C : ネダンワ ドシテ。

値段は どう。

008A : イヤイヤ アノ ネダンワ ソノ シナモニヨッテ (C ウン)

いやいや あの 値段は その 品物によって (C うん)

イロイロダケドー マー オレゲワ オレゲデ マー メオトダカラー  
色々だけれど まあ 俺の家は 俺の家で まあ 夫婦 [船] だから

(C ウン ソーダネー) コンタケン ナレバイーヨッテ (C イーヨネー)

(C うん そうだね) これだけに なれば良いよって (C いいよね)

ウン。マダ ウン デタトキ タノムヨー。

うん。また うん 出たとき 頼むよ。

009C : アイヨー ジャ マダ。

はいよ では また。

010A : ウン ジャ オサキネー。

うん では お先ね。

011C : ウン ジャー マダネー。

うん では またね。

012A : ア ウン マダネー。ハイ。

あ うん またね。はい。

#### 《解説》

仕事仲間同士のやりとりである。朝、すでに会っているのだから、昼は、仕事に出会ったときのやりとりが表現されている。

(3) あいさつ：夕方（午後五時、六時）、道端で友人に会ったときのやりとり

001C : アー オバンカタデスー。

ああ 御晩方です。

002A : アー オバンカタター。ドーシテー キョーワ ナーニ シンノー。

ああ 御晩方。 どう 今日は 何 するの。

003C : ソーダネー (B アー ウマイ) ケンチンニデモ スッカナー。キョーワ

そうだね (B ああ 上手い) けんちんにでも するかな。今日は

サムイガラー。  
寒いから。

004A : アー ソレモイーナー。ンデ オレモ イッテ X1 チャンニデモ [2]  
ああ それもいいなあ。それで俺も 行って X1 ちゃんにでも

ユーガー。  
言うか。

005C : ソダネー。  
そうだね。

006A : ウーン。ソロソロ モー ソーユー アッタケーノモ イーネー。  
うん。 そろそろ もう そういう 温かいのも 良いね。

007C : ソーネー。 ウーン。  
そうね。 うん。

008A : ウーン デ アシタ ナキ° ケー オメー。  
うん それで 明日 [は] 風かい お前。

009C : ドーダロー。 ダイジョブ、 デラレット イーネー。  
どうだろう。 大丈夫、 出られると いいね。

010A : ホントダナー ヤッパリ フネガ デテネートナー。  
本当だな やっぱり 船が 出ていないとな。

011C : ソー。  
そう。

012A : ウーン。デ トモカクヨー マダ アシタ デタトキワ タノムヨ Cチャン。  
うん。 で ともかくよ また 明日 出たときは 頼むよ Cちゃん。

013C : ソーダネー。  
そうだね。

014A : ウーン。  
うん。

015C : ジャー アシタ ガンバンベー。  
では 明日 頑張ろう。

016A : ソーダネー。(C ウン) ウン デテ ナキ° ダラ ナキ° ダラ シケデモ  
そうだね。(C うん) うん 出て 風なら 風なら 時化でも

トモカクナーッテ。(C ウーン) ウン マダ デタラ タノムヨー。  
ともかくなと。(C うん) うん また 出たら 頼むよ。

017C : アイヨー。  
はいよ。

018A : ウーン ジャー オヤスミネー。  
うん では おやすみね。

019C : ハーイ オヤスミー。  
はい おやすみ。

020A : ア アーイ。  
× はい。

《解説》

夕方のあいさつはオバンカタデスーである。この談話では、明日の天気の様子、夕食が話題となり、オヤスミで別れている。

(4) あいさつ : 夜、道端で友人に会ったときのやりとり

001A : ッデ コンバンワー。(B ハイ)  
×× こんばんは。(B はい)

002C : ア コンバンワー。  
あ こんばんは。

003A : インノー。  
居るの。

004C : イルヨー。ヨッテタラー。  
居るよ。寄って行ったら。

005A : ナニ ヤッテンノー。  
何 やっているの。

006C : ヨッテッタラーヨ。  
寄っていったらよ。

007A : イヤー ソコマデ キダカラー (C ウーン) アシタ ナキ° ダカ ナンダカ  
いや そこまで 来たから (C うん) 明日 風だか 何だか

ワガンネーガラー (C ウーン) ヨッテー シャベッテンノモ イーガヨー  
わからないから (C うん) 寄って シャベってるのも 良いがね

(C ウーン) ナギダッタラ シャー アンメヨー。

(C うん) 凧だったら 仕方 あるまいよ。

008C : イーンジャナイノー。チョッ イチンチグレ ジャナクテ ナンツー {笑}  
良いのでないの。 ××× 一日ぐらい じゃなくて 何という {笑}

(C {笑})

(C {笑})

009A : チョットグレーダッペヨー。

スコシぐらいだろうよ。

010C : チョットグレー。{笑} (B {笑})

少しくらい。 {笑} (B {笑})

011A : チョットモ イーケッドヨー アガレバ ナガクナッチャカラヨー。

少しも 良いけどね 上がれば 長くなってしまおうからね。

ウーン デイヤー。

うん ////////

012C : ソーダネー。アシタ ナギダト コマンモンネー (A ソー)

そうだね。 明日 凧だと 困るものね (A そう)

オギランナクテネー。

起きられなくてね。

013A : イーヨ コエ キータダケデ。(C ウン ウン) ウーン。

いいよ 声 [を] 聞いただけで。(C うん うん) うん。

マダ アシタ ナギダラ シャーネーガラ ンダッ (C ウン) オラ

また 明日 凧なら 仕方ないから ××× (C うん) 俺 [は]

イグヨー。バーチャンワ イグヨー。

行くよ。 ばあちゃんは 行くよ。

014C : ソーダネー ジャ アシタワ ヨロシク タノムヨー。

そうだね では 明日は よろしく 頼むよ。

015A : ウーン カエッテネー (C ウーン) タノムネー。ウーン ジャーネー。

うん 帰ってね (C うん) 頼むね。 うん ではね。

オヤスミー。

おやすみ。

016C : キオツケテヨー。(A ウン) アシモト キオツケテ。  
気をつけてよ。(A うん) 足元 気をつけて。

017A : ウン ハイ アリガトー ウン ジャ オヤスミーネー。  
うん はい ありがとう うん では おやすみね。

018C : オヤスミー。  
おやすみ。

019A : アーイ。  
はい。

《解説》

夜のあいさつはコンバンワーである。夕方と同様に、オヤスミーで別れる。

(5) 労い : Xが仕事に精を出すYと会い、Yの労をねぎらう際のやりとり  
(Xは話し手A、Yは話し手B)

001A : オヤー コンチワー。  
おや こんにちは。

002B : コンニチワー。  
こんにちは。

003A : イヤー ナニー キョー デバンケー。  
いやあ 何 今日 [は] 出番かい。

004B : デバン。  
出番。

005A : イーヤ ドーシテヨー キョーフ。  
いや どうしたね 今日は。

006B : キョーフ アメダガラ タイシタゴト ナガッタワー。  
今日は 雨だから 大したこと なかったわ。

007A : ウーン。シャーネーワナー、イズモ イーシ バカリ ネーガラナー。  
うん。仕方ないわね、 いつも 良い日 ばかり ないからなあ。

008B : ソーダヨネー。  
そうだよね。

009A : ウーン マー イー スコシ シマナトギワ ユックリシテナイ。  
うん まあ ×× 少し 暇なときは ゆっくりしていなさい。

010B : ソーシルホカ アンマー。  
そうする他 [は] あるまい。

011A : ネ (C ウン) ジャ マタ ガンバッテネー。  
ね (C うん) では また がんばってね。

012B : ハーイ。  
はい。

013A : ウーン ジャネー ハーイ。  
うん ではね はい。

《解説》

昼にはじめて会ったときのあいさつにはコンニチワー、コンチワーが用いられている。

(6) 勧め : Xが、仕事をしているYに「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり (Xは話し手B、Yは話し手A)

001B : オマーヨー スコーシ ヤスンダライガッペー ツカレッカラ。  
お前よ 少し 休んだから良いでしょう 疲れるから。

002A : トシダワナー カナワネーワナー クジト カラダワナー。ウーン イグラ  
年だわね。 かなわないわね // 体はなあ。 うん いくら

ヤスムベツツタッテ ミンナカ° ハタライテンノニーヨー イグラ  
休もうと言ったって みんなが 働いているのにな いくら

トシウエダカラッテ ヤスンデモ イラレマー。  
年上だからといって 休んでも いられまい。

003B : カーマメ ナンニモー。  
かまうまい 何も。

004A : ソーガー。(B {笑}) ウンジャー オレモ オジャ ノムガラ  
そうか。(B {笑}) それでは 俺も お茶 [を] 飲むから

オメモ ヨッテ オジャ ノンデッター。  
お前も 寄って お茶 [を] 飲んでいったら。

005B : ハイヨー。  
はいよ。

(7) 訪問時の声掛け：昼間、XがY宅を訪れる時の声かけと、Yの返事  
(Xは話し手B、Yは話し手A)

◆訪れるとき

001B：コンニチワー。ナニ ヤッテンノー。  
こんにちは。何 やっているの。

002A：アー オヤー ナーニ オマー ヨグ キタネー。シバラグダネー ドーゴ  
ああ おやあ 何 お前 よく 来たね。しばらくだね どこ

イッテキタ カエリナノー。  
行ってきた 帰りなの。

003B：イマ カイカ° ンビョーイン [3]。  
今 海岸病院。

004A：アレー ナニ ヤンダッタラ ヨッテギナー。イーヨ オレ イッカラ  
あれ 何 ××だったら 寄って行きな。いいよ 俺 [が] 居るから

アガンニャー、 マー。ナンニモ ネーケッド カラジャデモ  
上がってください、まあ。何にも ないけれど 空茶でも

ノンデギナー。  
飲んで行きなさい。

005B：ンジャ チョックラ アガッカー。  
それでは 少し 上がるか。

006A：ウーン アガッターラー。  
うん 上がったら。

◆帰るとき

007B：アーン ジャー ゴチソーサマー。ウン ダ カエッテミッカンネー。  
ああん では ごちそうさま。うん では 帰ってみるからね。

008A：アレ ナニコ° トモ シナカッターネー [4]。(B \_\_\_\_\_) キーツケテ  
あれ なんにも してやれなかったね。(B \_\_\_\_\_) 気をつけて

ケーンニャー。  
帰ってください。

009B：ハイヨー。  
はいよ。

010A : ジャ マタ キナヨネー。  
では また 来なさいよね。

011B : ハーイ。  
はい。

012A : ハーイ。ジャーネー。  
はい。 ではね。

(8) 借用の依頼と受諾 : XがYにスコップを借りる時のやりとり  
(Xは話し手B、Yは話し手A)

001B : ハナ ウエンノニヨー オメー ナンカ ネーゲヨー。  
花 [を] 植えるのによ お前 何か ないかよ。

002A : ナニ ヤンノ オメー。ハナ ウイルツテ。 カダーン?  
何を やるの お前。 花を 植えるといって。花壇?

003B : カダндаヨー。  
花壇だよ。

004A : アレー ウンデ スコシ ツチガ カタクナツチャツテペカラー。  
あれを それで 少し 土が 固くなってしまっているでしょうから。

スコシ グジャグジャ ヤルニ スコップデモ ヨーグ タテテー  
少し ぐじゃぐじゃ やるのに スコップでも よく たてて

ホリオコシテ ヤレヨ。ソレガラ ウエロヨー オメー。  
掘り起こして やれよ。それから 植えろよ お前。

005B : ウンデ カシテクンニャ ソノ スコップ。  
それで 貸してください その スコップ [を]。

006A : ハーイ ウーン イーノデワ ネーケットヨー ウン コレ  
はい うん いいのでは ないけどね うん これを

モツテテ ツカイナー。  
持って行って 使いなさい。

007B : ハイヨー (A ウーン) ンデ カリテグネー。  
はいよ (A うん) それで 借りて行くね。

008A : チャント モツテコーヨー。  
ちゃんと 持って来いよ。

009B : ハイヨー。  
はいよ。

010A : ハイ。  
はい。

(9) お礼 : Xが借りたスコップをYに返しに行った時のやりとり  
(Xは話し手B、Yは話し手Y)

001B : ドーモ アリガトネー。  
どうも ありがとうね。

002A : オヤーッ タダデ カエッ カエスノケー オメーツチャ。{笑} (B {笑})  
おやあ ただで ××× 返すのかい おまえさんは。{笑} (B {笑})

ウー、 イー ヤヨー ッテ ユツチャウ オレ。  
うう、 ×× ×× と 言うてしまう 俺 [は]。

003B : {笑} イーヤ キョーワ タダデ カエシトクカラ。  
{笑} いいや 今日は ただで 返しておくから。

004A : アー ソーダナー。(B ドーモ) タダヨリ コエーモンワ ネーガンナー  
ああ そうだなあ。(B どうも) ただより 怖いものは ないからな

オメー。  
お前。

005B : ハイヨー。  
はいよ。

006A : オワッテ ヨガッタネー。(B {笑}) ウーン。ハーイ ゴゲーローサーン。  
終わって 良かったね。(B {笑}) うん。 はい。 ご苦労様。

#### 《解説》

親しい間柄の会話であるだけに、返してもらった方の話者は「ただで返すのか」という反応をしている。すると、返しに行った方の話者も、それに応じた返事をしている。地域社会の中では、こういった楽しくもある会話によって、ものの貸し借りが円滑におこなわれている様子をうかがえる。

(10) 破損の謝罪・許容・不満 : XがYに借りたスコップを壊してしまい、謝る時のやりとり (Xは話し手B、Yは話し手A)

001B : チョックラ (A ウン) Y1 サーンヨー [5] (A ハイヨ) コノ スコップヨー  
ちょっと (A うん) Y1 さんよ (A はいよ) この スコップねえ

イガ (A ウン) トレチッターンダーワー。(A イー) ゴメンシナー。  
柄が (A うん) 取れてしまったのだから。(A いい) ごめんなさいね。

002A : アー イヤー コノ ナー バガジカラダシテー ヒトガンダドモツテ  
ああ いや この なあ 馬鹿力出して 人の物だと思って

セーセト ガジャガジャ ヤッターンダッペー。カー ッタク チャーント  
~~~~~と がじゃがじゃ やったのでしょう。×× まったく ちゃんと

シテヤリヤー イーノニ。シャー アンメー コワシッチャッタ モノア。
していれば いいのに。仕方 あるまい 壊してしまった 物は。

カタチノ アル モノワ コワレンダカラ。アー シャーネーヨー。
形の ある 物は 壊れるのだから。ああ 仕方ないよ。

003B : ハイ ドーモネー。スイマセンデシタ。(A ハイ) アリガトゴザイマス。
はい どうもね。 すみませんでした。(A はい) ありがとうございます。

004A : ハイヨー。アドデ イーノ カッテモラウベー。
はいよ。 あとで 良いのを 買ってもらおう。

005B : {笑}
{笑}

《解説》

「Yが構わないという場合」「Yが破損に対して不満を述べる場合」が混合したやりとりである。壊してしまった相手を責めながら、かつ、許している会話となっている。親しい間柄での会話展開である。

(11) 誘いと断り：XがYを産業祭に誘い、Yが断る時のやりとり
(Xは話し手C、Yは話し手A)

001C : オバチャーシ サンギョーサイニ イガナイケー。
おばちゃん 産業祭に 行かないかい。

002A : ナーニ オメー サンギョーサ ダッテ コノ トシンナッテ オメー
何 お前 産業 [祭] だって この 年になって お前

イッテトゴダ ネーワイ。ワガイモノ ツガイナー ワガイモノ。
行っているところでは ないわ。若い者を 使いな 若い者。

003C : ナーンデ イロイロ アルツ ウッデッガラ ミテクンベヨー。
なんで。色々 ××× 売っているから 見て来ようよ。

004A : ウーン ソレモ イーケンツトナー。ンダガ アルツテッド
うん それも いいけれどな。 それだけど 歩いていると

アシガイダグデナー。 アーシタ フネガ デダトギワ
足が痛くてな。 明日 船が 出たときは

シゴトン ナンネーガンナー。
仕事に ならないからな。

005C : ソーケー ジャー ヒトリデ イツテクッガー。
そうかい では 一人で 行ってくるか。

006A : ウーン ソーシロー イツテコー ナギダネグレバイーガ ナギンドギワナー
うん そうしろ 行ってこい 風ではなければ良いが 風の際はねえ

バーチャン (C ウーン) ウーン アレダカラ。
婆ちゃん (C うん) うん あれだから。

007C : アシガ イテグナツチャッタラ タイヘンダカラネー。
足が 痛くなってしまったら 大変だからねえ。

(A ウーン) X1 チャンニ オゴラレチャウカラ
(A うん) X1 ちゃんに 怒られてしまうから。

(A ソーダネー) ヒトリデ イツテクルワー。
(A そうだね) 一人で 行ってくるわ。

008A : アー ソーシロー アトデ イグトキワ マタ ツレテツテクンロー。
ああ そうしろ 後で 行くときは また 連れて行ってください。

(B ウーン) ウーン。ジャーネー。
(B うん) うん。 ではね。

009C : イツテクルヨー。
行ってくるよ。

010A : ジャーネー。
ではね。

(12) お見舞い : 体調を崩している Y に、X が体の調子を尋ねる時のやりとり
(X は話し手 C、Y は話し手 A)

(12-1) Yの調子がいい場合

001C : オバチャン ドーシテー グアイワー。
おばちゃん どうして 具合は。

002A : アレー ナニー ワザワザ ミマイニ キデクレダノー。(C ウーン)
あれ 何を わざわざ 見舞いに 来てくれたの。(C うん)

ターイシタコトネーガー マサカ ヨゴニ ナッテリヤー ラクダガラーヨー
大したことないが まさか 横に なっていれば 楽だからよ

ヨゴニナッテンダー。
横になっているのだ。

003C : イヤー オバチャン イネート サミシーガラヨー ドーシダカナート
いや おばちゃんが いないと 寂しいからよ どうしたかなと

オモッテ キテミタンダー。
思って 来てみたのだ。

004A : アレー ナニ カエッテ セーセーシテンダッペー オメーツラ。
あれ 何 却って 清々してるのでしょうか お前ら。

005C : イヤー ソンナゴドナイヨー イナイト サミシーンダヨー。
いやあ そのようなことないよ いないと 寂しいんだよ。

006A : イーッヤ ソンナ ゴドバーユッテテ トシヨリ エナグテ ウー
いいや そのような ことばかり言ってる 年寄りが 居なくて うう

セーセーシタッテ ユッテッペー。
清々したって 言っているでしょう。

007C : アッ フフ。ホンネワネ。
あっ ふふ。本音はね。

008A : アーッ {笑} (B {笑})
ああ {笑} (B {笑})

ダイジョブダヨー ウーン アリガトネー。ハーイ マダネー。
大丈夫だよ うん ありがとうね。はい またね。

009C : ヨーグ ナオシテ デテキナー オバチャン。
よく 治して 出て来なされ おばちゃん。

010A : アイヨー。
はいよ。

011C : マッデッガンネー ミンナネー。
待っているからね みんなね。

012A : アイヨー ジャー ミンナニ ヨロシクネー。
はいよ では みんなに よろしくね。

013C : ウーン。
うん。

014A : ゴシンパイカケヤンシター。ハーイ アリガトー。
ご心配かけました。 はい ありがとう。

015C : ハーイ オダイジニー。
はい お大事に。

016A : ハーイ。
はい。

(12-2) Yの調子が悪い場合

001C : オバチャン ドシテー マーダ ホンチョーシジャナイノー。
おばちゃん どうして まだ 本調子ではないの。

002A : ソー オレモ キモジワナー (C ウーン) イチバサ イギテー キモジワ
そう 俺も 気持ちはなあ (C うん) 市場へ 行きたい 気持ちは

ア نداケントー (C ウーン ウン) カーラダガ ホンチョーシニ
あるのだけれど (C うんうん) 体が 本調子に

ナレネーダー Cチャン。ウーン。
ならないのだ Cちゃん。うん。

003C : アンマリ (A ウン) コナイカラネー ドーシタガナードモッテー。
あまり (A うん) 来ないからね どうしたかなと思って。

004A : ウーン。
うん。

005C : ウーン。
うん。

006A : オレモ スグーニデモ イゲット オモッダラー (C ウーン)
俺も すぐにでも 行けると 思ったら (C うーん)

ヤッパリ ダメダワナー トシニワ カナワネーワー。モースゴシ ヤスンデ
やっぱり だめだわな 年には かなわないな。もう少し 休んで

エッガラー (C ウーン) タノムワー フネノ ホーネー。
いるから (C うーん) 頼むわ 船の 方ね。

007C : アー ジャー ワガッター ヨーグ ナオシテ デテキナー。
ああ では わかった よく 治して 出て来なさい。

008A : ウーン ワルイナー (C ウーン) イズモ セワンナツチャテヨー。
うん 悪いなー (C うん) いつも 世話になってしまつてよ。

009C : イーエー。
いいえ。

010A : アリガトヨー。
ありがとうよ。

011C : ウーン。
うん。

012A : ジャ アトデ インカラ タノムヨー。
では あとで 行くから 頼むよ。

013C : アイヨー。
はいよ。

014A : ンデ ヨロシクネー。
それで よろしくね。

015C : ジャーネー オダイジニー。
ではね お大事に。

016A : ハーイ アリガトー。
はい ありがとう。

(13) 申し出 : 体の調子が悪く、家の片付けもできないというYに、Xが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり (Xは話し手C、Yは話し手A)

001C : オバチャン チョーシガ ワルイッテユーカー (A ウン) ナンカ イエノ
おばちゃん 調子が 悪いというから (A ウン) 何か 家の

カタズケトカ ナンカ ヤッテヤ_____ {笑} ヤッテヤロート
片付けとか なんか ××××_____ {笑} やってやろうと

オモッテキタンダケド ナンカアルー ヤッテヤルヨー。
思ってきたのだけど なにかあるか やってやるよ。

002A : イーヤ アリガテヨー ソーノ キモジダケデ ジューブンダヨー。
いや ありがたいよ その 気持ちだけで 十分だよ。

オメーダッテ ウジノ コトガ アンダカラー ウーン ダイジョブダヨー。
お前だって うちの ことが あるのだから うん 大丈夫だよ。

デキルトコダケ ヤッデッガラー。(C ウーン) ダイジョブダヨー。
できるところだけやっているから。(C うん) 大丈夫だよ。

003C : イヤー ナンカ カタズカトカ ナンカ アッタラ ユイナヨー ヤッテヤッ
いや なんか 片付けとか 何か あったら 言いなよ ××××

ヤッテヤッカラ
やってやるから。

004A : アー ハイヨー ソノ キモジ ダケデ ジューブン。デギルコトワー
ああ はいよ その 気持ち だけで 十分。 できることは

(Cウーン) ソコラヘンデ ヤッテッカラ (C ウーン)
(Cうん) そこら辺で やっているから (C うん)

シンペシネーデー アリガトネー。
心配しないで ありがとうね。

005C : ナンカ カウモノカ° アッタラ カッテキテヤルヨー。
何か 買う物が あったら 買ってきてやるよ。

イーノー? ダイジョブー?
いいの? 大丈夫?

006A : アー イマントコー ウーン カッテクレタノガ アッカラー (C ウンウン)
ああ 今のところ うん 買ってくれたのが あるから (C うんうん)

ソレタベテテー マニアウカラ ダイジョブダヨー。
それ食べてて 間に合うから 大丈夫だよ。

007C : アー ジャー ナンデモ ユッテチョーダイ ヤッテヤッカラ。
ああ では 何でも 言ってちょうだい やってやるから。

008A : ハイヨー。ンデ ヨーナトキニワー (C ウーン) デンワカケッカラー
はいよ。それで 用のあるときには (C うん) 電話かけるから

ソントキワ ヨロシクネー。
そのときは よろしくね。

009C : ウーン。ジャーネー (A ウーン) マタ アトデ クッカラ。
うん。ではね (A うん) また あとで 来るから。

010A : ウン アリガトネー。
うん ありがとうね。

011C : オダイジニネー。
お大事にね。

012A : ハーイ アリガトー ドーモ イズモ ワルイネー。
はい ありがとう どうも いつも 悪いね。

013C : イーエー。
いいえ。

014A : ハーイ。
はい。

(14) 禁止 : 片付けの最中に、大事な写真をXが間違っ捨てようとするのをYが制止す
る言い方 (Xは話し手C、Yは話し手A)

001C : オバチャン コノ シャシンモ ステチャッテ イーノケー コレー。
おばちゃん この 写真も 捨ててしまっ いいのかい これ。

002A : アー ダメダ ダメダ。ソレワ ダイジナ オレノ カダミダ。
ああ だめだ だめだ。それは 大事な 俺の 形見だ。

ウーン イーヨ イーヨ ソレ ソコサ オイトイテクンニャー。ウン オレガ
うん いいよ いいよ それ そこに 置いておいてください。うん 俺が

アトデ ソコ カタズケッカラー。
後で そこ 片付けるから。

003C : アレー ゴメンネー インネノカト オモッテ ステッチャウベト
あれ ごめんね 要らないのかと 思っ 捨ててしまおうと

オモッタヨー。
思ったよ。

004A : オー ヨガッター キガツイテクレデヨー。
おお 良かった 気がついてくれてよ。

005C : ウーン。
うん。

006A : ウーン ダイジョブ ダイジョブ ウン ソレ ソコニ オイトイテクンニャー。
うん 大丈夫 大丈夫 うん それ そこに 置いておいてください。

007C : ハイヨー。
はいよ。

008A : ヨゴレテッカラナー アレダンベガー (C ウンウン) ソレ オレノ
汚れているからな あれだろうが (C うんうん) それ 俺の

(C ワガッダヨー) ダイジナモン ダカラ。
(C 分かったよ) 大事な物 だから。

009C : ハイヨー。
はいよ。

010A : シジャンナー。ハーイ カエッテ カエッテ。ソコ
それではね。 はい 帰って 帰って。 そこ [に]

オッツケトイテクンニャー。 [6]
おっつけておいてください。

011C : ハーイ。
はい。

012A : ハーイ アリガトー。
はい ありがとう。

大洗町談話B（場面設定会話） 注記

〔1〕 タンパ

短波。無線で船からの連絡が入る。

〔2〕 X1

談話Aの注記〔17〕に同じ。

〔3〕 カイカ°ンビョーン

大洗町大貫町にある大洗海岸病院。

〔4〕 ナニゴトモ シテヤレナカッタネー

何もしてあげられなくて悪かったという気持ちが込められている。

〔5〕 Y1 サンヨー

Y1は話者Aの屋号。屋号での呼びかけがおこなわれていることがうかがえる。

〔6〕 オツケテイテクンニャー

オツケテオクは「片づけないでそのままにしておく」の意味で使われている。

